

第九十回帝國議會 院 勞働關係調整法案委員會會議錄(速記)第六回

付託議案
勞働關係調整法案(政府提出)

昭和二十一年七月二十九日(月曜)
午前十時二十五分開議

出席委員

委員長 逢澤 寛君

理事 江崎 眞澄君 理事 龍澤 脩作君
理事 伊藤卯四郎君 理事 松岡 駒吉君

今井 はつ君 原 侑君

村上 勇君 川崎 秀二君

橋 直治君 山下 春江君

赤松 勇君 辻井民之助君

土井 直作君 今村 等君

東 隆君 柏原 義則君

穂積 七郎君 正田 敏男君

同月二十七日委員石田一松君辭任
ニ付其ノ補闕トシテ柏原義則君ヲ

議長ニ於テ選定シテ

出席國務大臣

司法大臣 木村篤太郎君

內務大臣 大村 清一君

商工大臣 星島 二郎君

厚生大臣 河合 良成君

出席政府委員

司法事務官 佐藤 藤佐君

厚生政務次官 服部 岩吉君

厚生事務官 吉武 惠市君

本日ノ會議ニ付シテ議案

勞働關係調整法案(政府提出)

○逢澤委員長 是ヨリ會議ヲ開キ

マス、通告順ニ依ツテ赤松勇君ニ
之ヲ許シマス 赤松君

○赤松委員 私ハ只今カラ社會黨
ノ立場ヨリ、併セテ全國ノ勞働階

級ガ勞働關係調整法ニ非常ナル關

心ヲ持ツテ居リマス關係上、殊

ニ又私ニ對シマシテ、全國各地ノ

勞働組合ヨリ百四十通モ勞働關係

調整法議會通過絶對反對、即時撤

廢要求ノ電報ヲ受取ツテ居リマス

ルシ、且ツ各方面カラヤハリ反對

ノ強硬ナル意思表示モ出テ居リマ

スル關係上、甚ダ恐縮デアリマス

ルガ可ナリ時間ヲ割イテ戴キマシ

テ、此ノ問題ニ關スル政府ノ根本

的態度、方策ニ付キマシテ御質問

シテ見タイト思フノデアリマス

私ハ順序ト致シマシテ先ヅ第一

ニ政府當局ノ考ヘテ居ラレマス

現下ノ勞働運動ニ對スル基本的ナ

認識ニ付テ御尋ネ申上ゲテ見タイ

ト思フノデアリマスルガ、司法

大臣ガ特ニ豫算總會ニ御出席サレ

マスル關係ガアリマスノデ、一番

最後ニ司法大臣ニ御質問シテ見タ

イト思フ點ヲ先ヅ御尋ネ申上ゲテ

見タイト思フノデアリマス、ソレ

ハ勞働組合法第十一條ノ問題デア

リマス、勞働組合法第十一條ノ規

定ニ依リマスルナラバ、使用者ハ

勞働者ガ勞働組合ノ組合員タルノ

シ不利益ナル取扱ヲ爲スコトヲ得
ズ、使用者ハ勞働者ガ組合ニ加入
セザルコト又ハ組合ヨリ脱退スル
コトヲ雇傭條件ト爲スコトヲ得
ズ」ト云フ規定ガアルコトハ御承
知ノ通りデアリマス、猶テ而モソ
レニ對シマシテ、若シ此ノ規定ニ
違反シタル場合ハ第三十三條ニ於
キマシテ「六月以下ノ禁錮又ハ五
百圓以下ノ罰金ニ處ス、前項ノ罪
ハ勞働委員會ノ請求ヲ待テ之ヲ論
ズ」ト云フコトニナツテ居ルノデ
アリマス、隨ヒマシテハ請求權
デアリマシテ告訴權ハナイノデ
アリマス、所ガ是等ノ規定ニ反シ
マシテ、事實勞働組合ニ加入シタ
リ、或ハ又勞働組合ヲ組織セント
シテ解雇サレタル幾多ノ事實ヲ私
ハ知ツテ居ルノデアリマス、併シ
ナガラサウ云フ事實ガアリマスル
場合、事業主ハ此ノ條文ノ規定ニ
該當スルコトヲ巧ミニ避ケマシテ
其ノ勞働者ノ日常ノ様々ナ缺點ヲ
取上ゲマシテ之ヲ解雇ノ理由ニシ
テ居ルノデアリマス、所ガ之ヲ勞
働委員會ニ提出シマスル場合ニ、
勞働委員會ハ構成ハ資本家代表五
名、勞働者代表五名、中立五名ヲ
以テ組織セラレ、所謂從來ノ機構
カラ言ヒマスルナラバ極メテ民主
的ナ組織構成ニナツテ居リマスル
關係上、本人ノ自白ヲ強要スル或

ハ自白ヲ期待スルト云フヤウナコ
トハ、所謂事業主ガ不當ナル裁首
ヲシタ其ノ裁首ノ事實ヲ勞働委員
會ニ於キマシテ自白ヲ期待スルト
云フヤウナコトハ事實上不可能デ
アリマシテ、本人ガ解雇ノ理由ヲ
他ニ求メテ強辯スルコトハ當然デ
アリマス、勞働委員會ハ客觀的事
實其ノ他諸般ノ點ヲ考慮シテ判斷
スルノ外途ナイコトハ當然豫想サ
レナケレバナラヌノデアリマス、
猶テ檢事局及ビ裁判所ガ勞働委員
會ノ本質ニ鑑ミマシテ、其ノ常識
的判斷ヲ踏襲シテ事實ノ認定ヲナ
スモノナリヤ否ヤ、是ガ第一點デ
アリマス、從來ノ如ク動モスレバ
形式主義ニ流レタ所謂被疑者本人
ノ自白ヲ重視致シマシテ、サウシ
テ事實ヲ認定シタ方針ヲ採ラレ
カドウカ、又ハ檢事局及ビ裁判所
ハ嚴格ナルモノヲ要求セラレモ
ノデアアルカドウカ、若シ之ヲ要求
スルトセバ、勞働委員會ガ其ノ性
質上形式的證據ヲ求メルコトハ困
難デアリマシテ、折角第三十三條
ノ規定ニ依ツテ勞働者ノ團結權ヲ
保護セントスルコトハ、結局空文
ニ等シイト思フノデアリマス、即
チ私ノ言ハントスル所ヲ要約シテ
申上ゲマスルナラバ、第十一條ニ
於ケル規定事項ハ、違反事實ガア
ルト云フ追訴希望意思ノ表明ダケ

デ足リルカドウカ、又ハ勞働委員
會ガ第十一條違反事實ノ全部ノ證
據ヲ添ヘテ追訴希望意思ノ表明ヲ
シナケレバナラナイ解釋デアアルカ
ドウカ、此ノ點ニ付テ司法大臣ノ
明瞭ナル御答辯ヲ御願ヒシタイト
思フノデアリマス

尙ホ此ノ機會ニ於キマシテ、從
來ノ「ドイツ」式ノ形式主義ヨリ
英米方式ノ合理的ナ判斷ニ移ルノ
意思ナキヤ、即チ言葉ヲ換ヘテ申
上ゲマスナラバ、民主的ナ勞働裁
判所ノ如キ機關ヲ設ケル意思ガア
ルカドウカト云フコトヲ御尋ネシ
テ見タイト思フノデアリマス

○木村國務大臣 只今ノ御質問ニ
御答ヘ致シマス、要スルニ御質問
ノ御趣旨ハ、勞働組合法第三十三
條第二項ノ「勞働委員會ノ請求ヲ
待テ之ヲ論ズ」ト云フコトノ意義
竝ニ其ノ取扱ニ付テノ御質問ノヤ
ウニ察セラレルノデアリマス、御
承知ノ通り此ノ三十三條ノ罰則ハ
第十一條ノ規定ト相俟ツテ勞働者
ヲ保護シヨウト云フノデアリマス、
ソコデ使用者ガ不當ニ勞働者ニ對
シ其ノ組合員タルノ故ヲ以テ解雇
シ、其ノ他之ニ對シテ不利益ナル
取扱ヲナシタル場合ニ、使用者ニ對
シテ制裁ヲ設ケヨウトスルノデア
リマス、是ハ特ニ御考ヘニナツテ
戴キタイノハ、今申上ゲマス通り

勞働者ノ利益擁護ノ規定デアリマス、而シテ斯様ナ違反行為ガアツタ場合ニ備テドウスルカト云フ問題ニナリマシテ、初メテ此ノ三十三條第二項ノ規定ガ動イテ來ルノデアリマス、勿論此ノ「勞働委員會ノ請求ヲ待テ之ヲ論ズ」是ハ恐ラク日本ノ各法律ノ罰則規定ニ於キマシテモ極メテ稀ナ規定デアリマス、刑法第九十條國交ニ關スル罪、初メテ之ト同様ナ規定ガ設ケラレテアルノデアリマス、御承知デモアリマセウガ「帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ズ」ト云フ規定ニナツテ居リマス、恐ラク今度ノ規定ハ今申上ゲマシタ規定ト同ジ性質デアツテ、極メテ稀ナ規定ナノデアリマス、要ハ斯ウ云フ違反行為ガアツタ時ニ、直チニ檢察當局ガ動イテ宜イノカドウカ、是ハ暫ク檢察當局ノ自發的、積極的ノ動キヲシナイ方ガ宜イ、要ハ使用者ト勞働者ノ關係デアルカラ、其ノ方面ノ自發的行動ニ在ルノガ宜イト云フ建前デ、此ノ勞働委員會ノ請求ヲ待ツテ之ヲ論ズト云フ規定ニナツタノデアリマス、ソコデ勞働委員會ノ方ハ、是ハ勞働者側カラ、要スルニ十一條ノヤウナ違反行為ガアツタ場合、之ヲドウシテ呉レルノカト云フコトヲ委員會ニ申出ル、サウシテ委員會ノ働キヲ促シテヤ

ラウト云フコトニナツテ居ルノデアリマス、然ラバ此ノ勞働者ガ勞働委員會ヲ動かスニ付テハドウ云フ手續ヲ執ツテ宜イノカ、總テノ證據ヲ蒐集シテサウシテ勞働委員會ニ之ヲ申出デナケレバナラスノカト云フト、サウデハナイノデアリマス、一應勞働者ガ斯クノ使用者側ニ違反行為ガアツタ、之ヲ取調ベテ實ヒタイト云フコトヲ申出レバ、勞働委員會デハ恐ラク其ノ言ニ基イテ、色々ノ材料ヲ蒐集シテ働キ掛ケテ來ルモノダラウト思フノデアリマス、勞働委員會ノ方デハ勞働者側ニ色々ノ資料ヲ求メルデアリマセウガ、是ハ凡ユル資料ヲ求メルト云フコトハ中々困難ナ事情ガアリマセウカラ、大體サウ云フ事實ガアリト認メラレマスレバ、勞働委員會ノ方デハ、恐ラク檢察當局ノ方ヘ向ツテ、其ノ發動ヲ促スコトニナルデアラウト信ジマス、勞働委員會ノ方カラ檢察當局ノ方ヘ發動ヲ促ス場合ニ於テ、ソレデハ凡ユル證據ヲ持ツテ來ナクテハナラヌカト云フコトニナリマスルト、サウデハナイノデアリマス、一應勞働委員會カラ是ハ檢察當局ニ其ノ發動ヲ促スニ足レリト信ジテ請求ガアツタ以上ハ、檢察當局デハソレヲ取上ゲテ凡ユル角度カラ之ヲ検討致シマシテ、十一條ノ如キ違反行為ガアレバ、之ヲ取締ツテ行クト云フコトガ其ノ精神デアリマス、勞働委員

會ノ方カラ檢察當局ノ方ヘ向イテ請求ガアル場合ニ於テモ、ソレハ確實ナル證據ガアレバ、ソレニ越シタコトハアリマセウガ、的確確實ナ證據ガナイカラト云ツテ、直チニ檢察當局デハソレヲ斥ケルモノデハナイノデアリマス、要ハ勞働委員會ノ方デ十分調ベテ、是ハ十一條ノ規定ニ違反スルモノデアラカラ、檢察當局ノ發動ヲ促スト云フ請求ガアレバ、檢察當局デハ勞働委員會ノ請求デ一應尊重致シマシテ、自發的行動ニ出ヅルベキモノト信ズルノデアリマス、結局ハ此ノ三十三條ハ十一條ト相俟ツテ、勞働者ノ保護規定デアリマスカラ、其ノ方面カラ十分考慮ヲ致シマシテ、檢察當局デハ萬違算ノナイヤウニ處置スル積リデアリマス、左様御承知願ヒマス

○赤松委員 厚生省所管事項ニモ關聯致シマスノデ、後程此ノ點ニ關シマシテ更ニ厚生大臣ニ御尋ネシテ見タイト思ヒマスガ、只今司法大臣ハ縱シ證據物件ガ明示サレナクテモ、司法權ノ發動ヲナス場合ガアリ得ルト云フ御答辯デアリマシタガ、ソレハ所謂常識判斷ニ待ツテ行フモノデアルカドウカ、所謂判斷ノ基準ハ何スアルカト云フコトヲ一應御尋ネ致シマス

○木村國務大臣 檢察當局ノ取扱ト致シマシテハ、是ハ常識ト申シマスレバ常識デアリマスガ、所謂法律常識デアリマス、凡ユル角度カラ之ヲ検討致シマシテ、サウシテ果シテ十一條ノ違反行為ガアリヤ否ヤト云フコトヲ認定スルノデアリマス、通り一遍ノ常識トハ考ヘラレマセウガ、要ハ客觀的妥當性ト申シマセウカ、總テノ情勢、其ノ時ノ在リ方ト云フモノヲ考慮ニ入レマシテ處置スルノデアリマス、左様御承知願ヒマス

○赤松委員 私人勞働組合法ニ於ケル第一條ハ、特ニ勞働者ノ團結權ヲ擁護スルモノデアルト云フ建前カラ極メテ此ノ問題ヲ重要視シテ居ルノデアリマス、只今司法大臣ハ即チ常識判斷ヲ以テモ司法權ノ發動ヲスルト云フヤウナ御答辯デアリマスガ、私ハサウ云フ曖昧ナル司法權ノ發動ニ依ツテ、果シテ此ノ問題ニ對スル勞働組合法第十一條ニ規定モル所謂勞働者保護ノ精神ガ法ノ上ニ於テ十分ニ其ノ意義ヲ發揚出來ルカドウカト云フコトヲ疑ハザルヲ得ナイノデアリマス、隨ヒマシテソレニ對スルモツト積極的ナ、發展のナ、モツト勞働者保護ヲ百「パーセント」ナシ得ルヤウナ用意ガアルカドウカト云フコトヲ再度、質問致シマス

○木村國務大臣 只今私ハ常識的ト云フコトヲ御質問ヲ全然丸吞ミニ受取ツテ申シタノデアリマス、所謂常識的ト申セバ法律の常識デアアル、要ハ客觀的妥當性ナノデアリマス、凡ユル資料ヲ檢察當局デハ考慮致シマシテ、サウシテ法律的常識ニ訴ヘテ之ヲ處斷ショウト云フノデアリマスカラ、通り一遍ノ常識デハナイノデアリマス、左様御承知願ヒマス

○赤松委員 然ラバ厚生大臣ニ御尋ネ致シマスカ、勞働委員會ニ於キマシテ解雇サレタル勞働者カラ是ハ不當解雇ナリトノ請求ガアツタ場合ニ、勞働委員會ガ其ノ取扱ニ付キマシテ、只今司法大臣ノ言ハレルヤウナ客觀的妥當性ヲ持ツヤウナ認定ガ十分ニナシ得ルト御考ヘニナツテ居リマスカドウカト云フコトヲ質問致シタイト思ヒマス

○河合國務大臣 勞働委員會ニ其一應ノ認定ヲ任セアル譯デアリマスガ、勞働委員會ト致シマシテ是モヤハリ客觀的妥當性ノアル場合デナイト取扱ヒセヌ、サウ考ヘテ居リマス

○赤松委員 若シ其ノ客觀的妥當性ナリト考ヘル點ガ實ハ客觀的妥當性ヲ缺イテ居ル場合ガ往々ニアリノデアリマス、現ニ埼玉縣ニ於キマシテモ其ノ問題ガ起リマシテ此ノ問題ノ取扱ニ付キマシテ昏迷シテ居ツタ事實ガアルノデアリマス、私ハ只今ノ厚生大臣ノ答辯ニ對シテハ極メテ不満足デアリマス、其ノ客觀的妥當性ヲ明示シ得ルヤウナ根據ト云フモノガ實ハ稀薄ナノデアリマス、言ヒ換ヘマスナラバ事業主ガ勞働者ヲ第十一條ニ實際ハ該當スルモ他ノ理由ヲ以テ往

往解雇スルコトガアルノデアリマス、其ノ場合ニ其ノ勞働者ガ不當解雇ナリト言フテ勞働委員會ニ不當解雇ノ理由ヲ請求致シマス時ニ客觀的妥當性ニ缺クルヤウナ嫌ヒガ往々アリマス、只今ノ第一條ノ規定ハサウ云フ意味ニ於キマシテ實ハ空文ニ等シト思ヒマス、其ノ點ニ關スル厚生大臣ノ更ニ明快ナル御答辯ヲ願ヒタイト思ヒマス

○河合國務大臣 勞働委員會ノ構成ハ御承知ノ通りニ勞働者側ノ代表、資本家側ノ代表、ソレカラ中立ノ者ト雖モ勞資兩代表ノ同意ノ上委嘱スルコトヲ建前ニナツテ居リマスカラ、勞働委員會ノ公正性ト云フコトニ付キマシテハ色々建テ方ハアリマセウ、アルケレドモ是ハ色々考ヘテ、寧ロ輿論ニモ聽キ、ソレカラ勞働者側、經營者側ノ意見モ聽イテ、之ニ落着クシテト云フコトヲ拵ヘタリデアリマシテ、是レ以外ニ非常ナ名案ガアツテ、今ノヤウナ問題ニ對シテ極メテ割切ナ處置ガ絕對的ニ出來ルモノダト云フ方法ガアリマスレバ兎モ角、ソレガナクテヤハリ人間トシテ考ヘテ、ドウモ只今ノ勞働委員會ト云フ制度ヨリ外ニナイト云フノガ日本ノ現狀ニ於ケル勞働委員會制度ト云フモノヲ作ツタ根據ダト思ヒマスカラ、場合ニ依リマシテハドウモ満足ニイカスコトモアリマセウシ、是ハ變ヘタラ宜カラウト云フヤウナ議論ノアルコト

モアラウト思ヒマスケレドモ、一應ハソレニ信賴性ヲ持ツテ行クト云フ外ニ制度トシテヤハリ方法ガナイノデアリマス、而モマヅイ時ニハ輿論モ起キマセウ、双方ニ不平モ色々起キマシテ、自然的ニ發展シ改革サレテ行クト云フノガ、是ガ社會ノ行ク道ダト思ヒマス、ソレデ裁判所デハアリマセウスケレドモ、其ノ公平ヲ認定ニ任スコトガ宜イト私ハ考ヘテ居リマス

○赤松委員 厚生大臣ノ御答辯ハ極メテ曖昧模糊デアリマシテ、サウ云フコトデハ此ノ第十一條ノ精神ガ勞働者側十分ニナル安心感ヲ與ヘルヤウナ結果ニハナラナイト思ヒマス、更ニ私ハ積極的ナ一ツノ方策ト致シマシテ、サウ云フ勞働委員會ノ取扱方ガ所謂客觀的妥當性ガアルカドウカノ認定ヲスベキ基準ガ十分ニ定ツテ居ナイト致シマスレバ、勞働者ノ請求權ニ對スル所謂裏打ヲスル意味ニ於キマシテ、勞働問題ヲ全般的ニ取扱フヤウナ綜合的ナ民主化サレタ勞働裁判所ト云フガ如キモノノ機關ノ設置ヲ急グ必要ガアルノデハナイカト云フコトヲ御尋ネシタイノデアリマス、尙ホ私ハ此處デ一言申上ゲマスガ、現在ノ裁判事ノ古臭イ頭ヲ以テ致シマシテハ、現在ノ如ク目マグルシイ勞資ノ様々ノ紛爭殊ニ客觀的情勢ニ對應スルヤウナ客觀的妥當性ヲ以テ判斷ヲナスト云フコトハ到底出來マセヌ、サ

ウ云フ意味カラ民主化サレタ勞働裁判所ノ如キ機關ヲ設ケル意思ガ政府ニアリヤ否ヤト云フコトヲ再度質問致シマス

○木村國務大臣 只今ノ御質問ニ對シテ御答ヘ致シマス、現今ノ司法官——是ハ裁判官、檢察官ヲ含メテ居リマスガ、之ニ付テノ御批判ガアツタヤウデアリマス、成程一部ノ者ニ多少舊來ノ頭ノ拔ケ切ラナイ者モアリマセウ、併シ大體ノ者ニ付キマシテハ現在ノ此ノ時代ヲ認識シテ居ルノデアリマス、我々モ此ノ司法官ノ教育ト云フコトニ付テハ最善ノ努力ヲ拂ヒツ、アリマス、又將來大イニ拂ハントシテ居ルノデアリマス、例ヘテ申シマスト最近司法部内ニ於テ司法檢察研修所ト云フ一ツノ組織ヲ設ケマシテ、是デ十分司法官ノ教育ノ再建ト云フコトヲ實地ニヤツテ居ルノデアリマス、斯ウ云フ勞働問題ニ付テモ現在ノ司法官ハ相當ノ認識ヲ深メツ、アルノデアリマス、ドウカ共ノ點ニ付テハ御心配ナクヤツデ戴キタイ、若シモ御質問者ノ如キ或ハ時代ニ副ハヌ斯ウ云フ取扱ヲシタト云フヤウナコトガ具體的ニアリマスレバ、ドウカ御遠慮ナク申出デ戴キタイ、將來司法官ヲ時代ノ線ニ沿ツテ教育スルト云フコトニ萬全ヲ考慮ヲ拂ヒタイト考ヘマス

只今ノ所勞働裁判所ヲ設置スルト云フ意向ハゴザイマセヌ、要ハ先刻申上ゲマシタ通り、此ノ三十三條、十一條ノ規定ニ關聯シタ問題ノ如キハ、自主的ニ勞働委員會ニ於テ之ヲ處理スル、サウシテ勞働委員會ニ於ケル問題ニ付テ、檢察當局ニ於テ解決ヲ要スベキモノデアレバ、勞働委員會ノ積極的活動ニ依ツテ、司法檢察當局ニ於テ、其ノ請求ニ依ツテ動イテ行ケバ、十分ニ勞働者ノ保護ヲ全ウシ得ルモノト確信スルノデアリマス、繰返シテ申シマスルガ、目下ノ所勞働裁判所ノ設置ノ意向ハ政府ニ於テナイト云フコトヲ申上ゲテ置キマス

○赤松委員 私ハ現下ノ如キ錯綜セル經濟狀態、或ハ社會的危機ニ當面致シマシテ、現在ノ司法官ガ果シテ其ノ事態カラ發生スル結果ニ對スル客觀的妥當ナル取扱ヲナシ得ルカドウカト云フ點ニ付キマシテハ、殘念ナガラ否ト答ヘザルヲ得ナイノデアリマス、是ハ單ニ司法官ノミナラズ官僚全般ニ對スル勞働階級ノ不信デアリマス、是ハ非常ニ重大ナ問題デアリマシテ恐ラク日本ノ民主化ト云フ點カラ言ヒマシテモ、此ノ問題ハマダマダ十分論ズル必要ガアルト思フノデアリマスルガ、只今ノ司法大臣ノ御答辯甚ダ満足デアリマスルガ、司法大臣ニ對スル御質問ハ是デ終リタイト思ヒマス

次ニ私ハ膳國務大臣ノ御出席ヲ要求シテ置イタノデアリマスルガマダ御出席ガナイノデアリマスカ

○達澤委員長 膳國務大臣ハ、今日ハ一寸都合ガ付カヌカモ知レヌト云フ話デスカラ、膳國務大臣ニ對スル質疑ハ保留シテ戴キタイ

○赤松委員 ソレデハ膳國務大臣ニ對スル質疑ハ保留シテ置キマセウ

次ニ河合厚生大臣ニ御尋ネシタイノデアリマスルガ、河合厚生大臣ハ、現下ノ日本ノ勞働運動ニ對シ、其ノ動向ニ對シテドウ云フ御認識ヲ持ツテ居ラレカト云フ點デアリマス、私ノ考ヘヲ以テ要約シテ申上ゲマスナラバ、現下ノ日本ノ勞働運動ト云フモノハ、極メテ健全ナル形ヲ執ツテ進ンデ居ルト思フノデアリマス、是ハ厚生大臣ノ御答辯ニ對シマシテ、更ニ私ハ其ノ見解ヲ披瀝シテ見タイト思フノデアリマスルガ、一應厚生大臣ガ我が國ノ勞働組合運動ノ現況ニ對シ、ドウヤウナ御考ヘヲ持ツテ居ラレカト云フコトヲ先ヅ御尋ネシタイト思ヒマス

○河合國務大臣 只今ノ勞働運動ノ大體ノアリ方ニ付テドウ云フ考ヘヲ持ツテ居ルカト云フ御話デゴザイマシタガ、是ハ非常ニ廣汎ニ互ル問題デアリマシテ、私ノ考ヘト致シマシテハ、大體ニ於テ斯ウ云フ行キ途ヲラウト思ツテ居リマス、中々勞働運動ノ展開ガ巧ク行

ツテ居ル所モアル、成程民主主義ニ變ル、斯ウ云フ風ニ行カネバナヲヌモノカト思フヤウナ例モ中々アリマス、殊ニ色々問題ガ解決シタカラ一肌脱イデ國家ノ爲ニ一ツ増産ダト云フヤウナ所ニ非常ナ熱ヲ持ツテヤツテ下サルヤウナ、本當ニヨクモ此ノ食糧不足ノ時ニ是マデヤツテ貰ヘルカト思フ本當ニ感激ヲ持ツテ迎ヘルヤウナ組合ナドモ相當アリマス、併シ、ト云ウテ全部サウカト申シマス、必ズシモサウデアリマセヌ、遺憾ナ點ノアルノモヤハリアリマス、ソコデハ、言フマデモナク今日ノ法制ノ下、或ハ近ク制定サレントスル憲法案ヲ目標トシマシテ、茲ニヤハリ一ツノ社會秩序ト云フモノハ、ドウシテモ絶對的ニ保持シテ行カナケレバナラス、サウ云フ點ニ關シテ今マデ勞働組合ハ全部合格カト言フト、必ズシモサウ申セヌモノモアリマス、ト云フコトデソレハ一ツノ提ヘマスト色々ノ議論ガアリマスクレドモ、兎ニ角モ非常ナ急激ナ發達デアリマシテ、サウシテ日本ノ民主化ト云フコトモ御承知ノ通りニ急激ニ來タ問題デアル、ソコヘ生活難ト云フ問題、物價高、食糧不足ト云フモノハ御承知ノ通りニ斯ウ云フ「デシボ」ノ速イ狀態デ參ツタノデアリマスルカラ、茲ニ或ル程度ノ混亂ナリ或ハ錯雜ナリガアルコトハ已ムヲ得マセヌガ、總テノ社會的

條件ヲ皆織込マセテ、又ヤハリ勞働組合ノ健全ナル自覺ト云フコトニモ相當ノ時ガ掛カルト云フコトモ、萬事綜合的ニ觀察シマスレバ最近ノ此ノ狀態ト云フモノハ先ヅ斯ウ云フ行キ途ヲ通ルベキモノダラウト云フ風ニ大體私ハ考ヘテ居リマス、併シ目標トシマシテハ絶對的ニ一ツ健全組合ノ發達ヲヤツテ欲シイ、サウシテ日本再建ノ經濟目標、即チ今ノ時ヲ以テシマスレバ生産増強、此ノ一點ニ萬端ガ集中スルト云フコトニアツテ欲シイト云フコトヲ希望シテ居リマス、大體サウ云フ風ニ考ヘテ居リマス

○赤松委員 只今厚生大臣ノ現下ノ勞働運動ニ對スル御認識ヲ承ツタノデアリマスルガ、實ハ一昨日ノ本會議ニ於キマシテ共產黨ノ志賀君ガ勞働關係調整法、此ノ法律ヲ制定スル政府ノ反動性ニ付キマシテ質問シタノデアリマスルガ、ソレニ對シマシテ厚生大臣ハ省電ノ「サボ」ヲ取上ガテ、斯ノ如キ公共ヲ害スル「ストライキ」ガアルガ故ニ勞働關係調整法ヲ必要トスルト云フコトヲ言ハレタノデアリマス、只今モ厚生大臣ガ言ハレマシタ如ク、個々ノ點ニ於キマシテハ好マシカラザル現象ガアルガ併シ是ハ急激ナル民主化ノ過程ニ於テ必然ニ現ハレテ來ル現象デアリカラ已ムヲ得ナイト云フ只今御答辯ガアツタノデアリマス、私ハ省電ノ「サボ」ノ如キ一ツヲ御取上

ゲニナリマシテ、アノ志賀君ノ御質問ニ對シテ御答辯ナスツタ厚生大臣カラ、只今委員會ニ於キマシテ私ノ質問ニ對シテ、ソレト異ツタ御答辯ヲ賜ツタノデアリマス、ソコデ私ハ河合厚生大臣ニ御尋ネシタイ點デアリマスガ、御承知ノ如ク我が國ノ生産機構、分ケテモ勞働條件ノ中ニ喰入ツテ居ル封建性ト云フモノハ極メテ濃厚デアリマス、而モ我が國ノ勞働階級ガ、「ヨーロッパ」アメリカ「ト比較ヲ致シマシテ、惠マレザル勞働條件ノ下ニ於キマシテ、多年我が國ノ産業發達ノ爲ニ努力ヲシテ來タト云フ點ニ於キマシテハ、是レ河合厚生大臣ト雖モ當然御認めニナルト思フノデアリマス、私ハ戰爭中監獄ニ入ツテ居リマシテ十分分リマセヌガ、アノ戰時中ニ於キマシテ、日本ノ勞働階級ガ帝國主義侵略戰爭ニ總動員サレマシテ、特ニ徵用工ノ如キハ父祖傳來ノ家業ヲ撙取ラレ、二東三文ノ賃金デ工場ニ打込マレ、或ハ多數ノ勤勞者大衆ハ同様ノ條件ノ下ニ於キマシテ各軍需工場ニ總動員サレ一方ニ於キマシテハ團結權ヲ蹂躪サレ、即チ日本勞働組合總同盟ヲ初メト致シマシテ、私共ノ所屬シテ居リマシタ日本勞働組合全國評議會モ昭和十二年十二月二十一日ニ時ノ末次内務大臣ニ依リマシテ社會ノ安寧秩序ヲ紊ス存在デアルト云フ理由ヲ以テ遂ニ解散ヲ命ゼ

ラレ、私ハ昭和十二年カラ昭和十六年八月四日マデ拘禁サレタノデアリマス、其ノ間、大東亞戰爭終戰マデ日本ノ勞働階級ハドノヤウナ形ニ於テ今次ノ戰爭ノ最モ大キナ被害者トシテ動員サレタカト云フコトハ、厚生大臣ト雖モ十分ニ御承知デアルト思フノデゴザイマス、特ニ憲兵監視ノ中ニ強制勞働ヲヤラサレマシタ、アノ爆撃ノ中デ而モ彼等ハソレガ國家ノ爲ナノデアアル、戰爭ニ勝ツマデハト云フサウ云フ合言葉ノ下ニ隱忍自重、殆ド半植民地的ナ、植民地以下ノ奴隸生活ニ耐ヘテ來タノデアリマス、終戰ニナリマシテ、「ボツダム」宣言ヲ我々ハ受諾ヲ致シマシタ、終戰ニナリマスルヤ日本ハ急遽民主主義ノ過程ニ入ツタノデアリマスルガ、長イ開戦ニ依ツテ家ヲ奪ハレ肉親ヲ奪ハレ、更ニ自己ハ空襲ノ中デ國家ノ軍需生産ノ爲ニ挺身ヲ致シマシテ、與ヘラレタモノハ何デアツタカト申シマスレバ、ソレハ敗戦ノ事實、更ニ彼等ハ失業者ニ轉落シタ、又殘ツタ勞働者ハ工場内ニ於キマシテヤハリ御承知ノ如キ勞働條件ノ下ニ耐ヘテ來タノデアリマス、是ハ「ヨーロッパ」ノ場合ナラバ或ハ「イタリア」ノ工場占領ノ如キ「サンヂカリズム」的ナ傾向ヲ以チマシテ、政府打倒ノ恐ラク政治的「ストライキ」ニ起チ上ツタデアリマセウ、或ハ又一九〇五年ニ於ケル

「ツアール」ノ專制政治、ソレヲ取巻ク「ロシア」ノ資本主義、其ノ集中的表現デアル所ノアノ反動政府ニ對シマシテ、又一九一七年當時ノ「ロシア」ノ勞働者ハ一齊ニ政治的「ゼネスト」ヲ以テ闘ツタノデアリマス、其ノ要求ハ勿論經濟的ノ諸要求モアツタデアリマセウクレドモ「ツアール」ヲ先頭トスル反動的資本主義ノ勢力ヲ倒シ、此ノ革命的ナ諸要求ヲ先頭ト致シマシテ政治的「ゼネスト」ヲ全國ニ展開シタコトハ御承知ノ通りデアリマス、歐洲大戰終戰ヲ致シマシタ後ニ於キマシテ「ドイツ」ニ於キマシテモ同様ニ又全國的ナ革命的、政治的「ストライキ」ガ勃發シタコトモ、厚生大臣十分ニ御承知デアルト思フノデアリマス、我が國ノ勞働階級ハアノ戰時中ニ於キマシテ慘憺タル血ノ犠牲ヲ拂ヒ、更ニ終戰トナリマスルヤ彼等ハ暴動一ツ起サズ、政治的「ゼネスト」一ツ起サズ、尙ホ日本民族ノ再建ノ爲ニ、祖國再建ノ爲ニ現在彼等ハ起チ上ツテ居ルノデアリマス、私ハ省電ノ「サボ」一ツ、或ハ全國一ツヤニツノ「ストライキ」ノ例ヲ御取リナリマシテ、是デ日本ノ勞働階級全般ヲ律セラレルト云フコトニ對シマシテハ、勞働階級ノ一人トシテ洵ニ憤激ニ堪ヘナイ（拍手）一體何處ノ國ニ是レ程柔順ナ、是レ程祖國愛ニ燃エタ、是レ程民族のナ勞働階級ガ

アリマセウカ、一體政府ハ「ベツ
ド」ノ上ニ横ハツテ居ル所ノ、胃
潰瘍ニ苦シンデ居ル所ノ患者ニ對
シマシテ砂利ヲ與ヘテ然ル後ニ榮
養食ヲ與ヘルカ、先ニ砂利ヲ食ヘ
ト言ツテ勞働關係調整法ヲ出シタ
ノデハナイカ、一體此ノ勞働運動
デ何處ニ行過ギテ居ル所ガアルカ
私ハ日本ノ再建ハ誰ガ何ト申シマ
シテモ、斷ジテ資本家陣營ノ中カ
ラ湧イテ來ルノチヤナイト思フ、
日本ノ再建ハ組織サレタ三百萬勞
働者ヲ中心トシテ日本ノ勞働階級
ノ熱烈ナル日本民族再建、國家再
建ノ其ノ階級の本能的ナ意欲以
外ニハ、日本ヲ再建スルモノハ斷
ジテナイト確信シテ居リマス、此
ノ點ニ關シマシテ本會議ヲ通シ委
員會ヲ通シ、政府ノ日本ノ勞働階
級ニ對スル認識ハ根本的ニ誤ツテ
居ル、殊ニ私ハ本日贈國務大臣ガ
御見エニナツタ時此ノ點ニ付キマ
シテ十分ニ其ノ御見解ヲ聽キタイ
ト思ツテ居ツタノデアリマスガ、
穂積七郎君ノ質問ニ對シマシテ二
十年、三十年前マデノ古ビタ所謂
勞資協調論ヲ盛ニ説イテ居ラレ
マシタガ、今ヤ日本ノ國ハ、若シ
日本ノ勞働階級ハ此ノ勞働關係調
整法ニ反對ヲ致シマシテ「ゼネラ
ル、ストライキ」ヲヤツタナラバ
政府ハ一體ドウ致シマスカ、政府
當事者ト雖モ、又我々ト雖モ同ジ
血ヲ分ケタ日本人同士デアル、我
我ハ「ソ」聯ノ植民地ニモ又外國

ノ植民地ニモナリタクハナイノデ
アル、何トカシテ一日モ早く日本
ノ再建ノ爲ニ、日本民族ノ永遠ノ
繁榮ノ爲ニ起チ上リタイト考ヘテ
居ル、其ノ矢先ニ今日ノ勞働階級
ハ革命的ナ政府顛覆ト云フヤウナ
「ゼネスト」ヲヤラズ、自然生長
的ニ自己ニ與ヘラレタ團結權、更
ニ自己ニ與ヘラレタ封建的ナ勞働
條件ヲ改善スル爲ニ、極メテ健全
ナル勞働政策ヲ以テ起チ上ツテ居
ル時ニ、其ノ出鼻ヲ挫キ、其ノ民
主的生長ヲ阻ム勞働關係調整法
ハ一體何處ニ意義ガアルノデスカ
其ノ必要ハ一體何處ニアルカ、若
シ必要トアリマスルナラバ、其ノ
自然生長的ニ正シク生長シヨウト
スル勞働運動ニ對シマシテ、政府
當局ガ健全ナ自然生長の勞働運
動ヲ横道ニ外レナイヤウニ、ソレ
ヲ民主主義的ニ正シク指導スル方
策ヲ考ヘルコトガ先ヅ先決問題デ
ナイカト思フノデアリマス、過日
ノ穂積君ノ質問ニ對シマシテ勞働
權ニ對スル國家統治ハ一應之ヲ肯
定スルモ、更ニ其ノ勞働權ニ對シ
テ國家統治ヲ加ヘルナラバ、當然
資本ノ利潤ニ對シテモ是レ亦國家
統治ヲ加ヘル必要ガアルデハナイ
カ、私ハ穂積君ノ觀點ト其ノ「イ
デオロギー」ニ於テ根本的ニ異ニ
シテ居ルノデアリマスガ、私ヲ以
テ言ハシメマスナラバ、當然國家
再建ノ爲ニハ此ノ際總テノ資本家
階級ガ、其ノ利潤ヲ自發的ニ國家

ニ返納スルコトト、更ニ又未發達
ナ、未成長ナ此ノ勞働權ヲ政府ノ
手ニ依ツテ棒ヲ嵌メルノデナクテ
之ヲ正シク成長サセルト云フコト
ガ必要デハナイカ、私ハサウ云フ
點ニ於キマシテ今回ノ勞働關係調
整法ハ無用ノ長物デアル、厚生大
臣ニ申上ゲテ置キマセウ、此ノ勞
働關係調整法ガ此ノ委員會ヲ通過
致シマシテ、更ニ本會議ニ於テ、
我々ハ絕對反對ヲ致シマスケレド
モ、遂ニ數ニ於テ破レマシテ、議
會ヲ通過シ、是ガ貴族院ニ廻サレ
マシタ時ニ於キマシテハ、必ズヤ
官廳官吏職員組合ノ諸君ヲ先頭
ト致シマシテ、全國ノ重要産業ノ
勞働者ガ、勞働關係調整法反對ノ
「ゼネラル・ストライキ」ヲヤルト
云フコトヲ決シテハハ駄法螺デハ
ナイノデアリマス、サウ云フ理窟
ヲ通ラナイ、筋ノ通ラナイ案ヲ押
付ケル、即チ「ベツド」ノ上ニ寢
テ居ル所ノ胃潰瘍ノ患者ニ榮養食
ヲ與ヘル前ニ砂利ヲ食ハサウトス
ル如キ政府ノ反動政策ニ對シマシ
テハ、好マシクハナイケレドモ全
國的ナ「ストライキ」ヲ以テ此ノ
法案ノ實現ヲ阻止セントスル決意
ト用意ヲ整ヘテ居ルト云フコトヲ
バ、特ニ河合厚生大臣ニ申上ゲテ
置キタイノデアリマス、私ハサウ
云フ意味ニ於キマシテ全國官吏
職員組合ノ諸君ガ、特ニ委員會ニ
於テ政府當局ニ傳達シテ呉レト云
フ所ノ勞働法反對聲明及ビ議會關

爭東京中央勞働大會ノ決議文ヲ讀
上ゲマス「勞働法中官吏爭議禁
止規定反對聲明、目下議會ニ於テ
審議中ノ勞働關係調整法第三十八
條ハ警察官吏、消防職員、監獄ニ
於テ勤務スル者ノミナラズ一般行
政司法官吏ニ付テモ爭議行為ヲ全
面的ニ禁止スル旨規定セルモ、右
ハ我々官廳職員組合ノ活動ヲ完全
ニ封殺セントスルモノデアツテ、
次ノ理由ニ依リ是ガ削除方ヲ要望
スル、第一、勞働組合法第四條ニ
依レバ警察官吏、消防職員、監獄
ニ於テ勤務スル者ヲ除キ一般行政
司法官吏ハ組合ヲ結成シ團結スル
權利ヲ認メラレテ居ルノデアツテ
此ノ團結權ガ認メラレテ居ル以上
警察官吏其ノ他ノヤウニ團結權ノ
認メラレテ居ナイ者ト同様一律ニ
爭議權ヲ否定スルコトハ勞働組合
法ノ趣旨ト全ク一致シナイ、蓋シ
團結權ノ實質的效力ハ爭議權ヲ與
ヘラレテ居ルコトニアルカラデア
ル、第二、我々國官廳制度ノ現狀
ハ依然封建的色彩ガ濃厚デ之ヲ打
破シ、眞ノ官廳ノ民主化ヲ推進ス
ルモノハ官廳内部ニ於ケル下カラ
盛上ル力、即チ官吏組合ノ運動以
外ニハアリ得ナイ、此ノ意味ニ於
テ官吏組合ノ爭議權ヲ否認スルコ
トハ、組合ニ依ル官廳民主化運動
ノ決定的效果ヲ減殺シ、封建主義
ノ厚イ壁ノ前ニ組合ヲシテ窒息セ
シメルモノデアアル、第三、本條文
ハ現在ノ官吏組合ニ對スル明カナ

ル不信ノ表明デアル、我々ハ對一
般的國民ノ關係ニ於テ「此處ヲ能
ク御聽キ願ヒマス」普通ノ會社工
場ニ於ケル勞働組合ト異ナリ、特
殊ナル立場ニアルコトヲ十分自覺
認識スルモノデアツテ、其ノ本來
ノ性質上輕々ニ爭議ニ入ルコトヲ
許サレナイシ、又爭議行為自體モ
亦極メテ制限サレタモノデシカナ
イ、此ノ特殊性カラ見テモ官吏組
合カラ爭議權ノ一切ヲ奪ハウトス
ル事由ノ發見ニ苦シムモノデア
昭和二十一年七月十八日、商工省
職員組合」
尙ホ聲明書ヲ澤山持ツテ居リマ
スガ、煩瑣ヲ避ケマシテ止メマス
ガ、私ハ以上ノ點カラ申シマシテ
只今厚生大臣ガ新シイ社會秩序ヲ
確立スル爲ニ勞働關係調整法、其
ノ他ノ勞働法ガ必要デアルト云フ
ヤウナ御答辯デアリマシタケレド
モ、私ヲ以テ言ハシメマスナラバ
現在ノ如キ健全ナル而モ戰爭以來
非常ニ從順、専心勞働條件ノ改善
ト云フ經濟的ノ諸要求ノ範疇ニ於
テ運動ヲ展開シテ參リマシタ現在
ノ勞働組合運動ヲシテ、更ニ勞働
關係調整法ト云フガ如キ惡法ノ棒
ヲ嵌メルコトニ依ツテ其ノ健全ナ
ル勞働組合運動ヲ強イテ政治的ノ
「ゼネラル・ストライキ」マデ發
展サセヨウトスル、サウ云フヤリ
方自身コソ新シイ社會秩序ヲ破壞
スルモノデアルト私ハ思フノデア
リマス、若シ眞實ニ政府自身ガ新

シイ秩序ヲ確立セントスルナラバ
既成ノモノニ對スル、既成ト申シ
マスナラバ、日本ノ産業再建ニ依
ツテ缺クベカラザル所ノ基本的要
件デアアル所ノ現在ノ資本ニ對シマ
シテ國家統制ヲ加ヘテ、同時ニ又
勞働階級ニ對シマシテハ其ノ階級
的ナ、本能的ナ、即チ日本民族ヲ
愛スル日本ノ祖國ヲ愛スル、祖國
日本ヲ再建スルニハ我々以外ニハ
ナイノダト云フ其ノ民族のナ階級
的ナ本能、意欲ト云フモノ、生産
意欲ト云フモノヲ之ヲ昂揚スルコ
トガ一番必要デハナイカ、特ニ私
ハ斯ウ云フ事實ヲ知ツテ居ルノデ
アリマス、過日ノ新聞ヲ見マス
「日本産業再建ニ暗影」トアリマ
ス、「工場閉鎖續出傾向、資本喰
逃」ノ魂膽カラカ亂暴ナ一方の宣
告」是ハ此ノ工場ダケデハナイノ
デアリマス、現ニ東芝ノ如キハ、
一方ニ於テ第二會社ヲ拵ヘ、現在
ノ工場ハガラ／＼デアアル、資本家
ノヤリ方ハ皆サウデアアル、第二會
社ヲ作ツテ置イテ、サウシテ自分
ノ利潤ヲ確保シナガラ元ノ工場ハ
斯クノ如ク儲カラナイ、隨テ減首
ハ已ムヲ得ナイ、「ロック、アウ
ト」モ已ムヲ得ナイ、賃金値上ハ
出來ナイ、勞働條件ノ改善ハ出來
ナイノダト云フコトヲ彼等ハ言ツ
テ居ル、此ノ工場ハ東京都ノ三鷹
ニアル所ノ正田製作所、資本金百
萬圓、是ハ元海軍機關大佐デ戰犯
デアアル、此ノ機關大佐ハ是ハ終戰

後轉換シテ金屬生必需品ヲ作ツテ居
ツタ、創業以來八年、四百人ノ從
業員ヲ持ツテ居ツタガ、是ガ勤續
八年ノ熟練工モ含メテ頭割僅カ三
百圓ヲ支給シ、新規雇傭契約ニハ
應ズル用意ガアルト云フ餘地ヲ殘
シテ居ルノミデ全四百ノ從業員ニ
對シテ退所ヲ要求シタ、之ニ對シ
テ從業員側ガ斯カル一方の通告ハ
團體協約、經營協議會規約並ニ勞
働組合法ニ違反スルモノトナシ生
產管理ニ移ツタ、目下前經營當時
ヨリモ三倍モ能率ヲ擧ゲテ居ル、
正田所長ハ其ノ後關西方面ニ旅行
シテ不在、其ノ爲ニ交渉ガ出來ズ
今後ノ成行ガ注目サレテ居ル、軍
需補償ノ打切ヲ豫斷シテノ自己資
本ノ再戰備、爭議ニ伴フ金利的ナ
打算ナドガ工場閉鎖ト云フ所謂資
本喰逃ノ方向ヲ醸成シテ居ル、
是ハ果シテ日本産業再建ニ取ツテ
健全ナルヤリ方デアアルカドウカ、
若シ厚生大臣ガ社會秩序ヲ云々ス
ルナラバ、ナゼ斯クノ如キ資本家
ニ對シテ取締リヲシナイカ、厚生
大臣ハ本會議以來生産管理ヲ屢、
所謂一片ノ法理論の根據カラ反對
ヲシテ居ラレマスケレドモ、大體
法理論的ノ見地カラ見マシテモ資
本家ノ企業權、資本家ノ所有權ト
云フモノニ對シマシテハ、是ハ各
國ノ憲法ヲ見マシテモ、其ノ通り
デアアル「ワイマール」憲法ニ於キ
マシテモ當然所有權、企業權ニ對
シマシテハ、義務ガ伴フノデス、

其ノ所有權、企業權ダケガ一方の
ニ、神聖ニシテ侵スベカラザルモ
ノデアリ、他方ニ於ケル勞働權ダ
ケガ抑制サレナケレバナラヌト云
フ所ノ根據ガ、一體何處ニアルカ
日本ノ産業ヲ再建シ、日本ノ民族
ノ危機ヲ突破スル爲ニハ、自己ノ
利益ニ汲々トシテ居ル所ノ、斯ク
ノ如キ資本家ノ徒輩ニ對シテ、宜
シク政府ハ嚴重ナル處罰ヲ行フト
同時ニ當然勞働者ノ正當ナル生産
管理ニ對シマシテハ、之ヲ認メナ
ケレバナラヌ、若シ生産管理ガ前
革命當時ノ「イタリヤ」ニ於キマ
スヤウナ「サンジカリズム」的ナ
所謂政治的ナ意味ヲ持チマシタ所
ノ工場占領デアアルナラバ、勿論厚
生大臣トシテハ望マシクナイデア
リマセウ、政府當局トシテモ望マ
シクナイデアリマセウ、併々今日
ノ個々ニ行ハレテ居リマス所ノ生
產管理ト云フモノハ、一體サウ云
フ政治的意味ヲ持チマシタ所ノ工
場占領デアアルカ、或ハ又日本ノ産
業再建ヲ根本的ニ妨ゲル障礙ニナ
ルヤウナモノデアリマセウカ、資
本家ノ企業權、所有權ニハ當然義
務ガ伴フト致シマスナラバ、資本
家ガ國家再建ヲ「サボタージユ」
即チ手持資材ノ値上リノ爲ニ、彼
等ガ意識的ニ生産「サボ」ヲヤツ
テ居ルガ故ニ、勞働者ガ生産ヲ管
理致シマシテ、全ク是ハ御苦勞サ
ンノ話デアアル、サウシテ一品デモ
一物デモ之ヲ國家再建ノ爲ニ多ク

生産セントスル、其ノ民族のナ意
欲ニ對シマシテ、ナゼソレヲ彈壓
スル必要ガアルカ、殊ニ生産管理
ハ先程申上ゲマシタヤウニ、單ナ
ル是ハ事務管理デアリマス、法理
論的ナ立場カラ言ヒマシテモ、或
ハ現下ノ客觀的事情カラ申シマシ
テモ、國家再建ト云フ大目的カラ
言ヒマシテモ、之ヲ一律ニ私ハ認
メヨトハ申シマセヌケレドモ、ア
ノ「イタリヤ」ニ於ケル所ノ工場
占領、或ハ政治的意味ヲ持ツタ所
ノ所謂工場管理デナクテ、當面ノ
資本家ノ生産「サボ」ヲ打破致シ
マシテ、少シデモ國家ノ爲ニ盡シ
タイト云フ遠イ、民族のナ、階級
的ナ、本能的の生産意欲カラ出發シ
テ居ルモノナラバ、之ヲ政府ハ認
メ、健全ナル方向ニ指導シ、發達
サスノガ當然デハナイカ、ソレヲ
合理的ニ解決スルノガ當然デハナ
イカ、私ハソレニ對スル厚生大臣
ノ全勞働階級ニ對シテ安心感ヲ與
ヘルヤウナ、責任アル御答辯ヲ要
求スルモノデアリマス

○河合國務大臣 只今赤松君ノ詢
ニ聲淚共ニ下ルト云フ御質問ニ對
シマシテ、敬意ヲ表スル次第デア
リマス、色々御指摘ノ事實ニ付テ
先ツ答辯ヲ致シマスガ、志賀君ノ
質問ニ付テ手電車ノ「サボ」ヲ
例ニ引キマシタノハ、公益事業ニ
對シマシテハ、抜打のノ爭議ヲヤ
ラレテハ、實際市民モ國民モ日常
生活ニ困ルノダト云フコトヲ、時
間モ餘リ掛ケテ説明スルノモドウ
カト思ヒマシテ、端のナ例ヲ引イ
テ、皆サン御存ジノ事實デ、公益
事業ニ於ケル抜打爭議ハ困ルノダ
ト云フコトノ例ニ述ベタダケノコ
トデアリマス、ソレデ私ハ先程全
體ノ流れトシマシテ、斯ウ云フコ
トデアラウト云フコトヲ申シマシ
タノハ、勿論個々ノ問題ヲ指摘シ
テ居ル意味デハアリマセヌ、非常
ニ大キナ流れ、歴史ノ上ニ書タヤ
ウナ意味ノ此ノ流れニ於テ、色々
錯雜シタ事情ニアル時ニハ、先ヅ
コ、ラデアラウト申シタ意味デア
リマス、其ノ點ヲドウゾ御諒承願
ヒタイト思ヒマス
ソレカラ色々御指摘ノ點モアリ
マシタ、日本ノ勞働者ガ、戰爭中
ニ色々ノコトヲ通ツテ來タニ拘ラ
ズ、終戰後ニ於テ是ダケ國家ノ爲
ニヤツテ居ルデヤナイカト云フコ
トニ付キマシテハ、私モ大體ニ於
テ非常ニ御同感デアリマシテ、民
族ノ特質ト申シマスガ、或ハ一般
國民ノ自覺ガ相當進ンデ居ツタト
申シマスガ、兎モ角モ破壊ニ導カ
ズシテ、此ノ時代ヲ斯ウヤツテ通
シテ戴イテ居ルト云フコトニ付キ
マシテハ、是ハ政府當局ハ勿論、
國民全般ニ於テ、オヒヒニ慶ブベ
キコトデアルト云フコトニ付キマ
シテハ、御同感デアリマス併シ此
ノ勞働關係調整法ト云フモノハ、
決シテ私ハ壓迫のノモノト考ヘテ
居リマセヌ、又資本家ヲ擁護スル

トカ、サウ云フ一派ノ階級ノ爲ニ
斯ウスルモノトハ、少シモ考ヘテ
居リマセヌ、前カラ度々申上ゲマ
スル通りニ、一ツハ仲裁ナリ、或
ハ調停ナリ、或ハ斡旋ナリ、機
械的ナ方法ト申シマスカ、手續
コトヲ書イタニ過ギナイ、モウ
ノ面ハ、官吏ノ點ニ付ツテ御指摘
ガアリマシタ、若シ假ニ、官吏ノ
「ゼネスト」ト云フヤウナモノガ
起キルトシマスレバ、日本ノ國ハ
ドウナリマセウ、私モ此ノ間労働
關係調整法ノ提案ノ時ニ労働者諸
君ノ腕デ日本ノ經濟ヲ再建シテ貰
ハナケレバナラヌノダト申シテ居
ル、今赤松君ノ御指摘ノヤウナ、
是ダケ自覺ノアル、是ダケ反面ニ
於テシツカリ肚ノ坐ツタ労働者諸
君、或ハ勤勞者諸君、此ノ終戦後
ニ何ノ風波モ起サズ、斯ウヤツテ
來テ下サツタオ方ガ、今度ハ「ゼ
ネスト」ヲヤルト云フコトニナル
ト、ドウナリマスカ、サウ云フコ
トヲヤラレテハ困ル、ヤルカモ知
レナイト云フコトデハ大變デ、ヤ
ラレテハ困ルカラ、ヤハリ國家ノ
全體トシマシテハサウ云フコトハ
止メテ貰ヒタイト云フ國家ノ意思
ヲ、民衆多數ノ代表デアアル兩院、
殊ニ衆議院ニ於テ提案シテ、サウ
シテサウ云フコトハ困ルノダト云
フコトヲ書カウト云フノガ、此ノ
法律ノ趣旨デアリマス、決シテ今
ノ御所論ト矛盾スルモノデナク、
日本ノ國ヲ本當ニ安穩ニ保ツテ行

ク、破壊ラシテハ何ニモナラヌ、
破壊ラシテハ共倒レデス、ソレヲ
保ツテ行ク爲ニ、其ノ意味ガ官吏
ノ「ストライキ」禁止トナツテ現
ハレテ居ルノデアリマス、サウシ
テソレ以外ニ勿論他意ハアリマス
ソレハ官吏モ困ル、困ルカラ生活
ト云フコトハ、注意シナケレバナ
ラヌ、併シナガラ一方ニ於テ國家ノ
財政狀態、又食糧不足、其ノ他ノ
苦シイ狀態モ御承知ノ通りデアリ
マスガ、此ノ間モ先ヅ是ダケト云
フコトデ、アレハ政府ガ獨斷デ決
メタト云フコトデナク、各役所ノ
内部ノ空氣、ソレカラ官業労働者
ノ方ノ鐵道ナリ或ハ遞信ナリノ空
氣モ聴イテ、アレダケノ點ニ政府
トシテハヤツタ譯デアリマス、其
ノ點ニ付テ將來非常ニ生活ガ困ル
ト云フコトニナレバ、又ソレモ考
ヘナケレバナラヌ、一方ニ於テ政
府ハ出來ルダケノ誠意ヲ以テ物ヲ
ヤツテ居ルト云フコトヲ御考ヘ願
ヒタイト思フノデアリマス
生産管理ノ問題ニ付テ御言及ニ
ナリマシタガ、此ノ點ニ付キマシ
テハ度々申シテ居ル通りデアリマ
シテ、又改メテ此處ニ御説明スル
ノモ、餘リ繰返スコトニナルカラ
止メマスガ、大體此ノ點ニ付キマ
シテハ聯合國側ノ趣旨モ明瞭トナ
ツテ居ルコトデアリマシテ、是ハ
我々當局トシマシテハ今マデノ聲
明ヲ變更スル考ヘヲ持チマセヌ
○赤松委員 私ハ更ニ二ツノ點ニ

於テ御質問致シマス
○達澤委員 赤松君、今豫算總
會ノ方デ要求シテ居ルサウデスカ
アナタノ厚生大臣ニ對スル質問ハ
マダ長イノデスカ
○赤松委員 長イデス、私ハ引續
イテ答ヘテ戴カケレバ困ル、豫
算總會ノ方ヲ後廻シニシテモヤツ
テ戴キタイ、本法ハ憲法ニ次グ重
大ナ問題デス
○達澤委員 ソレデハドウゾ
○赤松委員 私ハ二ツノ點ニ於テ
更ニ厚生大臣ニ御質問致シマス、
ソレハ厚生大臣ハ官吏ノミニ爭議
ヲ禁止シタ、其ノ根據ハ一體何處
ニアルカト云フコトデス
更ニモウ一ツ御尋ネシタイコト
ハ、若シサウ云フ抽象的ナ理由ヲ
以チマシテ生産管理ヲ認めナイト
云フナラバ、曾テ東京都ニ於キマ
シテ業務管理ヲ行ツタノデアリマ
ス、其ノ場合ニ當時ノ松井都長官
ハ、之ヲ業務管理ノ宣示事件ト稱
シマシタ、労働組合側ハ之ヲ業務
管理ト稱シテ居ツタノデアリマス
果シテアノ業務管理ガ一體公共ノ
利害ノ何處ニ反シタノデアルカ、
更ニ又アノ業務管理自身ガ都ノ行
政或ハ其ノ他ノ運営ニ貢獻シコソ
スレ、一體何處ニ大キナ障礙ヲ殘
シタノデアルカ、其ノ二ツノ點ニ
付テ御尋ネ致シマス
○河合國務大臣 第一ノ點ノ官吏
ノミナゼ禁止シタカト云フコトハ
官吏ノ爭議行爲ト云フコトハ、直

チニ國務ノ遂行ニ支障ヲ來シマス
サウシテ國家ノ政務ト云フモノハ
國民一般ニ對シマシテ、最モ公共
性ノ深イ、公共ノ福祉ト云フ上ニ
於テ最モ重大ナ關聯ヲ持つテ居ル
ト思ヒマスガ故ニ、官吏ノミヲ禁
止シタ譯デアリマス——官吏ノミ
デハアリマセヌデ、官吏及ビ官吏
ニ準ズベキ者ト云フコトデアリマ
ス
ソレカラ第二點ノ東京都ノ業務
管理ハ、政府ニ於テハ業務管理ト
ハ認めテ居リマセヌ
○赤松委員 然ラバ御尋ネシマス
ガ、ア、云フ形態ヲ業務管理ト認
メナイナラバ、ア、云フ形態ニ於
ケル業務ト云フヨリモ、労働組合
運動形態ヲ是認ニナリマスカト云
フ點ガ一ツ、モウ一ツハ官公吏ニ
對スル爭議制限ハ、國務ノ遂行ニ
障礙ニナルカト云フ點デアリマ
スケレドモ、此ノ點ガ厚生大臣ト
我々労働階級トノ間ノ認識ノ相違
ナンデアリマス、厚生大臣ハアナ
タノ下ニ厚生省ノ職員組合ガアル
ノヲ御存ジデセウ、商工省ノ中ニ
商工組合、農林省ノ中ニ農林省ノ
職員組合ガアルノヲ御存ジデセウ
一體日本ノ現在ノ官公吏ガ理由モ
ナク、又何ノ必要モナク突然「ス
トライキ」行爲ニ出ルト云フヤウ
ナ不信賴ヲ、厚生大臣自ラ自分達
ノ子供ニ對シテサウ云フ風ニ御考
ヘデアルカ、私ハ日本ノ官公吏位
從順ナ官公吏ハナイト思フ、自分

ノ子供ニ對シテ、是ハ不良ニナル
カラト云フノデ、前以テ不良ノ
「レットル」ヲ自分ノ子供ニ貼ルノ
ト同様デアアル、ナゼモット自分ノ
部下ヲ信賴シナイノデアルカ、其
ノ官公吏ヲ含メタ労働階級ニ對ス
ル所ノ根本的ナ信賴感ガナクテ、
ドウシテ國家ノ再建ガ出來ルノデ
アルカ、人ヲ見レバ泥棒ト思ヘト
云フ譯ガアリマスガ、政府ノ大臣
自ラガ道義ノ頹廢ヲ來シテ居ルト
思フ、此處ニモ官吏諸君ガ居ルガ
一體ソレヲ人ガ國家ノ利害モ考
ヘズ、理由モナク、不必要ニ誰ガ
「ストライキ」ヲヤルヤウナ馬鹿
ガアルカ、ナゼモット自分ノ部下
ヲ、日本ノ労働階級ヲ信賴シナイ
ノデアルカ、厚生大臣ガサウ云フ
御認識ヲ持タレ、サウ云フ認識ノ
上ニ立ツテ勞動政策ヲオヤリニナ
ル限リニ於キマシテハ、社會秩序
ヲ作ル爲ニサウ云フ法案ヲ作ツタ
ト云フガ、結果ニ於テハ社會秩序
ヲ政府自ラガ破壊スルヤウナコト
ニナル、一體河合厚生大臣ハ、自
分ノ子供ニ對シテドウ云フ御考ヘ
デアリマスガ、信賴シテ居ルト云
フコトト爭議禁止ノ法律ヲ作ルト
云フコトトハ別個ノ問題デアルト
云フヤウニ御考ヘニナルカ、法律
トハ行動ノ規範デアリ、同時ニ又
國民生活ノ集中的表現デアアル、其
ノ一片ノ形式的ナ法律ニ依ツテ人
ノ心ヲ動カセルト思ツテ居ルノカ
若シソノ風ニ考ヘテ居ルトスレ

バ、何ト云フ今日ノ日本ノ官僚共ハ馬鹿野郎ナシデアラウ、日本人ガ日本人ヲナゼ信頼シナイ、官僚ノ形式的ナ觀念デ、ドウシテ此ノ未會有ノ大國難ガ突破出來ルカ、自ラノ子供ヲ信頼シ得ナイヤウナ者ガ、ドウシテ自ラヲ信頼スルコトガ出來ルカ、私ハ若シ飽タマデ河合厚生大臣ガ、自分ノ子供ニ對シテ信頼ガ持テナケレバ、河合厚生大臣自ラガ國務ヲ遂行スルコトガ不可能デハナイカ、辭職ヲ要求スル(笑聲)——アツハハトハ何ダ君ナシカ勞働階級ニ對シテドウ思ツテ居ルノダ、アツハハチヤナイヨ、ソナナ不真面目ナ態度ガアルカ、辭職ヲ要求スルコト云フコトガナゼソナナニ惡イカ

○達澤委員長 赤松君ニ注意シマス、質問ヲ繼續シテ下サイ
○赤松委員 以上ノコトニ付テ御答へ願ヒタイ
○河合國務大臣 東京都ノ此ノ間起キマシタ事務ヲ業務管理トハ思ハナイト申シマシタケレドモ、ソレガ業務管理デナイカラ、其ノ他ノ運動ガ總テ善イトカ惡イトカ云フ問題トハ別ニ考ヘナクチヤナラナイト思ヒマス、サウ云フコトガ官廳トシテ善イカ惡イカ、ソレハ其ノ問題ニ付テ個々ニ判斷スベキコトデアリマシテ、唯私ハ業務管理トハ政府ハ認メテ居ラナイト云フ點ダケヲ申上ゲタノデアリマシテ、ソレ以外ノコトニ付テソレハ

ドウ云フ運動ノ形態ヲ執ルノカト云フコトハ、其ノ時ノ具體的ノ問題ニ付テ、ドウ云フコトデアツタカト云フコトガモツト明細ニ分ラナクテハ、唯抽象的ニサウ云フ形態ヲ將來認メルカ認メナイカト云フコトハ論斷ヲ下セナイト思ヒマス

モウ一ツ御答へ致シマス、第二ノ問題ノ點ハ、部下ヲ信頼シテ居ルカ、居ルナラバ、其ノ部下ガ拘束サレルヤウナ法律ヲ設ケルコトハドウカト云フ意味ノ御質問ト拜承致シマスガ、私ハ只今私ノ部下ニ全幅ノ信頼ヲ置イテ居リマス、サウシテ其ノ部下ニ依ツテ、厚生省ノ仕事ガ圓滿ニ行ツテ居ルコトヲ感謝シテ居リマス、併シナガラ今ノ時、今ノ瞬間ダケヲ捉ヘテ、國家ノ法律ヲドウスルコト云フコトニハ行カヌノダト思ヒマス、ヤハリ國ニ、斯ウ云フ一ツノ途ヲ付ケヤウデハナイカ、斯ウ云フ風ノ範圍内ニ於テ勞働組合ノ健全ヲ發達ヲ圖ラウデハナイカト云フ一ツノ目標ガアリマシテ、其ノ目標ニ依ツテ法律ヲ制定スルコトデアリマシテ、決シテ今ノ部下ニ對シテドウノ斯ウノト云フ考ヘトハ、全ク別ノ見地ニ基イテ居ルコトヲ御諒承願ヒタイト思ヒマス

○赤松委員 問題ヲ明瞭ニスル爲ニ、私ハ先ニ業務ノ問題カラ入ツテ行キマス、サウシテ只今ノ官公吏ニ對スル爭議行爲ノ禁止ニ對シ

マシテハ、是ハ又後程質問致シマスガ、私ガ今厚生大臣ニ御尋ネ致シマシテ、厚生大臣ハ斯ウ云フ御答辯デシタ、アノ業務ガ宜イカ惡イカト云フコトヲ抽象的ニ論ズルコトハ出來ヌ、語ルニ落チタ、抽象的ニ宜イカ惡イカト云フコトハ生管一般ニ對シテドウスル、サウデセウ、アノ業務ハ、業務ノ具體的ナ内容ヲ見ナケレバ、宜イカ惡イカト云フコトノ判斷ガ出來ナイ出來ナイトスレバ、政府自ラガ、抽象的ニ生管カイケナイト云フコトヲナゼ規定スルカ、御質問シマス

○河合厚生大臣 アノ時ノ事情ハ結局生産管理ト云フモノナリ、業務管理ト云フモノハ、ドウ云フ點ニドウ入ツテ來タモノヲ生産管理ト認メルカ、ドウ云フ點ニドウ入ツテ來タモノヲ業務管理ト認メルカト云フ、一ツノ政府ノ見ル所ハアリマスノデ、其ノ線ニ入ツテ來ナイガラ、是ハ業務管理デナイト云フ風ニ認定シタト云フコトニ御承知願ヒタイ

○赤松委員 然ラバ續イテ御質問致シマスガ、生産管理、業務管理ノ具體的ナ内容、特ニソレヲ否認スル理論的ナ根據、範疇、限界、サウ云フモノニ付テ具體的ニ御答辯願ヒタイト思ヒマス

○吉武政府委員 只今ノ御質問ニ御答へ致シマスガ、生産管理ハ、企業者ノ指揮、命令ニ反シテ行フ

行爲ガ生産管理ト思ヒマス、ダカラ此ノ前ノ東京都ノ生産管理ガ生産管理デナイト申シマスルノハ、指揮命令系統ニ反シテ居ナイノデアツテ、其ノ中デ生産管理ヲヤツテ居ルノダ、斯ウ言ツテ居リマスカラ、ソレデ生産管理ノ實體ト認メナイ、斯ウ云フ意味デアリマス

○赤松委員 事業主ノ指揮命令ニ反シテ行フモノガ生産管理デアリマスカ、サウ云フモノヲ否認スルト云フノデスカ

○吉武政府委員 左様デアリマス反シテヤウツ場合ハドンナモノデスカ、ソレハ否認シナイノデスカ認メルノデスカ、事業主ノ命令系統ニ反スルモノヲ否認スル、然ラバ勞働組合側、勞働者側ノ意思ニ反シテヤウツ場合ハ認メルノデスカ

指揮命令ヲ排シテサウシテ勞働者ガ勝手ニヤルト云フコトハ詰リ我々ノ言フ生産管理ニナル、ソレデソレハ宜シクナイ、斯ウ云フ意味デアリマス

○赤松委員 サウ致シマスルト、勞働權ト企業權ト云フモノノ立場ハ、企業權ノ方が上位ニアルノデスネ——更ニ私ハ其ノ點デモウ一ツ聴キタイノデスカ、若シ上位ニナイトスルナラバ、當然勞働者側カラノサウ云フ生産管理ノ要求ハ又是ハ政府ガ否認シヤウトシマイト、客觀的ニ見テ正シイト云フコトニナル、アナタ達ノ御考ヘカラ言ヘバ、企業主ノ命令系統ニ反スルモノハ、政府ノ否認スル生産管理ダ、私ハ生産管理ノ意義ハソコニアルノデハナイト思フ、其ノ生産管理ガ、社會的國家的ニ見テ國家、社會ノ福祉ニ或ハ生産ニ寄與シ得ルヤ否ヤト云フ點カラ問題ヲ決メテ行カナクテハナラヌ、アナタノ言フノハ、企業家ノ指揮命令ニ反スルモノヲ、政府ガ否認スル生産管理ダト云フコトニナリマスナラバ、是ハ一ツノ新シイ問題トシテ私ハ取上ゲテ見タイト思フ、若シサウ云フ風ハ一方のナ、企業家ノ封建的ナ、天降リ的ナ、ソコニ批判ト云フモノノナイ指揮命令ト云フモノハ絕對權ダ、丁度會テ我ガ國ノ天皇ガ持ツテ居ラレタヤウナ絕對權、其ノ絕對權ト云フモノガ行使セラレ、ソレニ反スル

モノハ全部政府ノ好マシカラザル
否認スベキ生産管理ダト云フコト
ニナル、サウナルト一體労働權ト
云フモノハ何處ニアルノデスカ、
團結權ト云フモノハ何處ニアルカ
憲法ニ於テ人民ノ權利義務ト云フ
モノガ規定サレ、所謂平等ト云フ
コトガ規定サレテ居リマスガ、其
ノ憲法ニ反シ、且ツ「ボツダム」
宣言ニ反スルと思フ、御答辯願ヒ
マス

○河合國務大臣

此ノ點ハ前々カ
ラ私ガ何遍モ申上ゲテ居リマス通
リニ、經營權ト労働權トハ二本建
ニナツテ居ルト云フコトデアリマ
ス、ソレデ經營權ト云フモノハ、
其ノ工場ノ生産ナリ何ナリガ指揮
命令ヲシテ行カケレバ纏マリハ
付カヌデスカ、ソレハ其ノ經營
權ノ内容デスカ、ソコニ入ルコ
トハ労働權トシテハ宜シクナイト
云フコトナノデス、此ノ點ハ明カ
ダと思フ、サウスルト労働權ノ内
容ト云フモノハ、是ハ労働者ノ團
體ヲ作り、ソレカラ爭議ヲヤツテ
モ宜シイ、サウ云フ所ニ團體ヲ作
ツテハイカヌ、爭議ヲヤツテハイ
カヌト云フコトニナリマスレバ、
是ハ經營者ガコチラノ分野ニ干渉
スルコトニナル、是ハイケマセヌ
サウ云フ意味ニ於テ對立的ニナリ
マシテ、決シテ經營權ガ上デアツ
テ、労働權ガ下ダト云フ觀念デハ
一ツモアリマセヌ

○赤松委員

然ラバ吉武政府委員
ニ御聴キ致シマスガ、今ノ河合厚
生大臣ノ御説明ト、アナタノ御説
明トハ違フヤウニ思フ、アナタノ
御説明ニ依レバ、唯問題ノ焦點ガ
指揮命令系統ダケニ存スルノデス
ネ、生産認定ノ基準ト云フモノ
ガ――何處マデガ生産管理デア
ルカ何處マデガ生産管理デナイカ
ト云フコトノ認定ノ基準ト云フモノ
ガ指揮命令系統ダケニ存スルト云
フコトニナルノデスカ、其ノ點ニ
關シテ是ハ政府一般ノ御解釋ト考
ヘテ宜シウゴザイマスガ、吉武政
府委員カラ御答ヘ願ヒマス

○吉武政府委員

只今厚生大臣カ
ラ御答辯致シマシタコトトチツト
モ矛盾シテ居リマセヌ、私ノ申シ
マシタノハ、企業權ト労働權トガ
アツテ、ソレデ企業權ノ内容トシ
テ經營ヲシテ行ク、其ノ經營ノ指
揮命令ヲ排シテ労働者ガ勝手ニ其
ノ生産ヲヤリ、經營ヲスルト云フ
コトハ宜クナイ、斯ウ云フ意味デ
アリマス、片一方ノ厚生大臣カラ
言ハレタ労働權ノ内容ハ、組合ノ
團結權ニ認メラレテ居リ、而モソ
レニ基キテ主張シ、團體交渉モ出
來ル、サウシテ爭議權ニ認メラレ
テ居リ、爭議ヲヤル上ニ於テハ、
此ノ爭議ハドンナコトデモ宜イカ
ト云フコトニハナラナイノデアリ
マス、正當ナル爭議行爲ヲ認メテ
居ル、正當デナイモノハ認メナイ
斯ウ云フ意味デアリマス

○赤松委員

爭議行爲ノ正當ト云
フノハ一體ドウ云フコトデスカ、
正當ト云フノハドンナ「ストライ
キ」ガ正シクテ、ドンナ「ストライ
イキ」ガ正シクナイト云フノデア
リマスガ、更ニモウ一ツ御聴キシ
タイコトハ、今日企業權ト云フモ
ノモ労働權ト云フモノモ、モツト
言葉ヲ換ヘテ申セバ、當該工場ニ
於ケル従業員全體ノ生産ニ對スル
發意權或ハ能動的ナ労働掛ケ、自
發權、サウ云フモノハ多カレ少ナ
カレ人事、經理、労働、生産ノ問
題ニ總テ繋ガツテ居ル、アナタノ
仰シヤルヤウニ企業家ノミノ一方
的ノ人事、經理生産ト云フモノハ
アリ得ナイ、多カレ少ナカレソレ
ハ綜合的ナ有機的ナ聯關性ヲ持ツ
テ居ル、若シソレナシニヤラウト
スルナラバ、ソレハ本當ニ封建的
ナ一方的ナ經營ノ仕方ダト云フコ
トニナル、アナタハ何處ノ工場ヘ
デモ行カレテ御覽ニナレバ分ルト
思フ、一ツノ人事ノ問題ヲ扱フ場
合デモ、丁度鐵道省ガ今度ノ人事
ノ問題デ労働組合ニ對シテ申入レ
ヲシタ、是ハ團體協約ガアルカラ
ナイカラト云フコト申入レヲシタ
ノデハナイ、今日デハ總テノ問題
ハ労働組合トノ相互ヒノ深い理解
ト信頼ト合議ト上デナケレバ成立
タナイ、隨テアナタノ仰シヤルヤ
ウニ企業權ガ天降リニ來ル、其ノ
企業權ノ意思ニ對シテ、命令ソレ
自身ニ對シテ反對シタ場合ハ企業
權ヲ侵犯スルモノダト云フコトデ

○赤松委員

サウ云フ「ストライイキ」ナリ或ハ
生産ナリハ認メナイ、ソレカラア
ナタノサツキ仰シヤツタ生産ノ問
題トモウ一ツ私ガ前ニ御尋ネシタ
點ヲ明瞭ニ御答ヘ願ヒマス、中心
點ダケデ宜シイ

○吉武政府委員

只今ノ御意見ハ
生産管理デ私ガ申上ゲマシタノト
多少異ツテ居ルノデアリマスガ、
一ツノ經營ガ労働者ノ經營權ニ基
クノト、モウ一ツ労働權ト云ヒマ
スカ労働者ノ意思ガ入ツテ相俱ニ
一ツノ生産ガ行ハレテ行クト云フ
コトハ御話ノ通りデアリマス、隨
テ今日所得經營協議會等ヲ設ケテ
労働者ノ意思ヲ參畫セシメルト云
フコトガ問題ニナル、而モ政府ト
シテハソレヲ否認シテ居ナイノデ
ス、併シサウダカラト云ツテ片一
方ノ企業權ヲ全然排除シテ其ノ經
營ヲ労働者自ラガ勝手ニヤツテ宜
イト云フコトニハナラナイと思ヒ
マス、其ノ點ヲ一ツ御諒願ヒタ
イト思ヒマス

○赤松委員

然ラバ斯ウ云フ現象
ガ起キタ場合ニドウナリマスガ、
事業主ガ其ノ企業權ニ伴フ當然ノ
義務ヲ遂行シナイトスルト企業權
其ノモノハ社會的ニ國家的ニ見テ
企業權其ノモノハ本來ノ在リ方ト
云フモノハ消滅スル、本質的ニ消
滅シナイマデモ其ノ意味ガ非常ニ
減少サレル、若シサウ云フモノガ
絕對的ナ企業權ヲ振廻シテ僞ガ企
業ノ權利ヲ持ツテ居ル、經營ノ權

利ヲ持ツテ居ルノダカラ生産「サ
ボ」ヲヤラウガ、生産ヲ停止シヤ
ウガ、ソレハ僞ノ自由ダ、斯ウ云
フ場合ガ往々ニアリ得ル、サウ云
フ當然義務ノ伴フ所ノ企業權ヲ果
シ得ナイ場合、労働權ガ其ノ義務
ヲ代行スルト云フコトハ決シテ私
ハ非合法デヤナイと思フ

○吉武政府委員

其ノ點ハ御尤モ
ナ點ガアルと思ヒマス、隨ヒマシ
テ本會議ニ於テモ厚生大臣及ビ商
工大臣カラ現下ニ於テ縱シ生産
「サボ」ノヤウナコトガアルナラ
バ、政府トシテハ慎重ニ精査シテ
特別ノ方途ヲ講ズル、斯ウ言ツテ
居ラレマスシ、又サウ云フ方法ヲ
準備サレテ居ルノデアリマス、ソ
レハ御尤モカト思ヒマス

○赤松委員

ソレハ資本家ノ生産
「サボ」ヲ對象トスル取締ヲヤル
ト云フノデアツテ、私ハソレヲ言
ツテ居ルノデハナイ、サウ云フ企
業權ニ當然伴フ所ノ義務ヲ果シ得
ナイモノニ對シテ、労働權ガ其ノ
義務ヲ代行スルト云フコトハ決シ
テ非合法デハナイ、ドウデスアナ
タノ御意見ハ――

○吉武政府委員

サウ云フ場合ハ
アラウカト云ヒマスケレドモ、併
シソレモ法的ナ根據ナシニ勝手ニ
労働者ガヤルト云フコトハ宜クナ
イト思ヒマス

○赤松委員

法的根據ガナイト仰
シヤルガ、然ラバ生産ヲ否認スル
法的根據ト云フノハ何デスカ、例

第六編第十一號 労働關係調整法案委員會會議 第六回 昭和二十一年七月二十九日

へバ當然義務ヲ伴フ企業權ヲ果シ得ナイ者ニ法的ナ根據ガアルノデスカ、ナイデセウ、ソレハナイカラ政府ノ方ニ於テ生産「サボ」ニ對シテハ特別ナ取締ラスル爲ノ方法ヲ講ジテ居ルト云フノデセウ、ダカラ具體的ニ言ヘバ現在ノ工場内ニ於ケル勞資ノ關係ハ殆ド無政府狀態デアル、ソコデアナタ達ガ今仰シヤツタヤウニ、上カラ天降リ的ニ企業權ノ一方の指揮命令ニ依ツテヤルモノハ合法的デアル、ソレニ從ハナイモノハ非法デアル、其ノ判定ノ基準ガ企業家ノ企業權カラ出發シテ居ル、其ノ點ガ我々ト考ヘ方ガ違フ、我々ヲ以テ言ハシメマスナラバ、當然現在ノ企業權ト云フモノハ、其處ニハ生産ヲシナケレバナラス、而モ其ノ生産ハ自己ノ利益ノ爲ニ生産スルト云フノデハナクテ、國家社會ノ爲ニ生産ヲシナケレバナラスト云フ所ノ意義ガ附與サレテ居ル、其ノ意義ヲ抹消シテ、又其ノ義務ヲ代行シヨウトスル勞働組合ノ生産意欲ヲ取入レヨウトシナイ、サウ云フ企業權ヲ合法的ト認メラレルカドウカ、ソレニ對シテアナタノ方ハ積極的ナ取締ノ方法ハ講ズルト言ハレマスガ、サウ云フモノガ存在スル、而モ勞働者ガ企業權ノ義務ヲ代行シヨウトシテ所謂生産ノ爲ニ生産ヲ管理スル——管理ノ方法モ色々アリマス、例ヘバ人事經理ヲ管理スル場合モアリ得ル、

或ハ人事ダケヲ管理スル場合モアル或ハ經理ダケヲ管理スル場合モアル、何レニ致シマシテモ、サウ云フ生産意欲ニ基イテ物ヲ一ツデモ二ツデモ多ク造ラウトシテ努力シヨウトスル勞働組合ノ生産意欲之ヲ非合法ダト云フ風ニ片付ケラレルコトハ間違ヒデハナイカ、私ハ勞働權ト企業權ハ双方ノ理解ト信頼ノ上ニ立ツテ双方ノ義務ヲ其處ニ果サナケレバ——勞資協議會ノ問題ハ別問題トシテ、當然現段階ニ於ケル勞資ノ在リ方ハサウデナケレバナラス、アナタノ仰シヤルヤウニ唯企業權ダケノ一方の指揮命令ニ依ツテ、ソレニ反スルモノハ非合法デアルト云フヤウナ判定ノ基準ハ私ハ根本的ニ誤ツテ居ルト思フ、隨テ東京都ノ業管、アレハ私ヲ以テ言ハシメマスレバアレハ生産「サボ」トハ違ヒマスガ、自己ノ勞働權ニ伴フ所ノ義務ヲ今マデノ「ストライキ」ノヤウニ抛擲シナイ、其ノ義務ヲヨリ社會的ニ生カス意味ニ於テア、云フ運動經過ニ入ツタ、ソレヲ厚生大臣ハ業管ト認メナイト仰シヤルナラバ、然ラバアレハ一ツノ宣示事件トシテ、アノ程度ノモノナラバ合法的ナモノトシテ御認メニナルカ

○吉武政府委員 私ノ説明ガ足リナイト見エマシテ御諒戴ケナイノデアリマスガ、今ノ生産管理ハ企業者ノ指揮、命令ニ反シテ、生産管理スルト云フノデスカラ、誰カソレヲ經營スル者ガ居ル譯デス其ノ居ルノヲ管理スルト云フコトハ、其ノ經營スル者ヲ排除シテ、代ワテヤルト云フコトデアル、ソレデスカラ其ノ生産ヲ行フ者ノ意思ニ反シテ排除シテ、勞働者ガ勝手ニヤルコトガ生産管理デアル、ソレハ企業權ヲ犯スコトニナツテ宣クナイ、斯ウ云フ意味ナンデス企業者ノ指揮命令ニ反スル行爲ハ一切イカストハ言ツテ居ナイノデス、一ストライキ」ナルモノハ是ハ正當ナル爭議行爲ト認メラレテ居ル、仕事ヲセヨト云ツテモ、ソレガ正當ノ要求ガ通ラナイ時ニハ已ムラ得ズ「ストライキ」ニ出ルサウ云フモノマデイカスト言ツテ居ル譯デハナイ、經營權ヲ全然排除シテソレニ代ルト云フコトガイケナイ、斯ウ云フ意味デス

○赤松委員 然ラバ御尋ネシマスカ、先程私ハ正田製作所ノ實例ヲ舉ゲテ御尋ネシタノデスカ、正田製作所ニ於ケル工場閉鎖、ソレニ對シマシテ勞働者ハ生産管理ヲヤウツテ、現在生産ヲ續ケ、而モ平生ノ三倍ノ能率ヲ舉ゲテ居ル、此ノ生産管理ニ對シテハドウ思ハレマスカ

○吉武政府委員 アレノ真相ハマダハツキリ致シテ居リマセマスガ、新聞デ見タ所ニ依リマス、ア、云フ風ニ出ラレル事業主ノ態度ハ私必ズシモ宜イトハ思ヒマセヌ、ケレドモサウダカラト云ツテ生産管理ヲヤルコト、生産管理トシテハ宜シクナイト思ヒマス

○赤松委員 是ハ重大ナ問題デス然ラバアナタハ、其ノ正田ト云フ人ガ資本ノ食逃ゲヤウツテ餘所ヘ逃亡シタ、行方ガ分ラナイ、其ノ場合ニ生産管理ヲセズ、生産ヲセズニ正田ト云フ行方不明ニナツタ人ノ歸ルノヲ待ツテ居レト云フノデスカ、其ノ場合ニ仕事ヲスルコトガイケナイ、仕事スル場合ニ生産管理ニナリ得ル根據ハ、アナタガサツキ仰シヤツタヤウニ、企業權ト勞働權ノ兩方合議ノ上デ行フ場合ニハ合法的デアルト仰シヤル、所ガ是ハ一方ガ逃ゲデシマツタ、而モ生産ヲシナケレバナラヌ企業ノ義務ト云フモノヲ一方的ニ抛擲シテ居ル、其ノ場合ニアナタハ其ノ勞働者側ニ其ノ生産ニ携ハツテハナラナイト云フコトナラバ、一體生産ヲセズニ、其ノ儘ボシヤリ何時歸ルトモ分ラヌ其ノ事業主ヲ待ツテ居ルト云フコトニナル、サウ云フコトヲアナタハ正シイト仰シヤルカ、サウナルト今正田製作所ニ於キマシテ、四百人ノ従業員諸君ガ事業主ニ逃ゲラレデモ、刻下ノ急務トシテハ一品一物モ澤山生産スルコトガ必要デアルサウ云フ生産意欲デハ一生命ニ生産シテ居ルコトガイケナイトアナタハ仰シヤルノデスカ、イケナイト仰シヤルナラバ、一體勞働者ハ

ドウナルノデスカ、サウ云フ「ロック・アウト」ヲ喰ヒ資本ノ食逃ゲノアツタ時ニ、取殘サレタ勞働者ガ尙ホ生産ヲ續ケルト云フコトガイケナイノカ、是ハ重大ナ問題デスヨ、アナタハ簡單ニ御答辯ニナツタカモ知レマセヌガ重大ナ問題デスヨ、資本家ガ資本ノ食逃ゲノヤウツテ工場ヲ「ロック・アウト」シテ當然企業權ノ義務ヲ果サナイ故ニ勞働組合側、従業員ガ、其ノ資本家ノ義務ヲ代行シテ、一品一物デモ國家ノ爲ニ生産シナケレバナラヌトツツ云テ働イテ居ル、汗ト油デ働イテ居ル従業員ノヤウテ居ルコトガ惡イト云フコトニナルト重大ナ問題デスヨ、斯ウ云フ生産管理コソ政府自ラガ獎勵シテヤラセルベキデヤナイカ

〔ダカラ調整法ガ出來タノダ〕ト呼ブ者アリ

○河合國務大臣 大體是ハ所有權ヲ土臺ニシテ、サウ云フ經營權ト勞働權ト云フモノトノ二ツノ關係デアリマスカラ、ソレハ全體ノ秩序ノ問題デ、ソレヲ一々ノ場合ノソレガ生産増強ニナツタカラ是ハ善イトカ、是ハ惡イトカ云フ問題デハナイ、二ツノ真中ニ線ヲ引イテ、經營權ヲ侵犯シテハナラス、又勞働權ヲ侵犯シテハナラスト云フ建前ガ建前デスカラ、ソレガ個個ノ場合ニハ、是ハ善カツタトカ、惡カツタトカ云フコトハアツデモソレハ問題デハナイ、全體ニ一ツ

ノ線ヲ引ク、是ガ國家ノ秩序デス
ソレデ今ノ問題モ、資本家側ガ「サ
ボ」ダトカ、或ハソコニ拙イコト
ガアツタト云フ問題ニ對シテハ
是ハ又特別ナ法律ヲ出ス準備ヲシ
テ居リマス、ソレニ依ツテ「サボ」
ハिकासデヤナイカト斯ウヤツテ
行カウ、片方ダケヤルノデナク、
片方モヤラウト云フノデアリマス
（「ヒヤ／＼」拍手）

○赤松委員 デアリマスカラ我ガ
黨ヲ代表シマシテ松岡駒吉氏ガ本
會議ニ於キマシテ、生産管理ヲサ
ウ云フ法理論的ナ企業權、勞働權
ノ抽象的ノ意味ニ於テ、之ヲ一律
ニ律スベキデハナイ、生産管理ノ
具體的ナ内容、ソレヲ十分見テ、
サウシテ國家ノ爲メ社會ノ爲ニ一
品一物デモ澤山生産シヨウトシテ
サウシテ逃ゲテ居ル、或ハ生産「サ
ボ」ヲヤツテ居ル其ノ資本家ヲ激
勵シナガラ、生産意欲ヲ百「パー
セント」發揮セントシテ居ル勞働
者ニ對シテ、政府ハ非合法的ダト
一方的ナ抽象的ナ解釋ニ依ツテ否
認スルガ、サウ云フモノハ特別ニ
保護ヲ加ヘルト云フ方法ガ必要デ
ハナイカ、而モサウ云フ現象ハ東
京都ニ於ケル正田製作所ダケノ現
象デハナイ、全國各地ニ、愛知縣
ニ於キマシテモ生産管理ヲヤリマ
シタノガ、既ニ十三件以上ニ上ツ
テ居リマス、而モ其ノ十三件以上
ノ生産管理ヲヤリマシタソレ等ノ
總テガ、一ツトシテ工場ヲ潰シテ

ハ居ナイ、總テ生産管理後ハ三倍
五倍ノ能率ヲ擧ゲテ居ル、ソレヲ
今モ「ヒヤ／＼」ト云フ手ガ鳴ッ
タノデアリマスケレドモ、決シテ
「ヒヤ／＼」所デハナイ、大事ナ
問題デアル、デアリマスカラ抽象
的ナ概念のナ一方的ナ法理論的ナ
解釋ヲ以テソレヲ否定スルコトハ
出來ナイ、是ハ厚生大臣モ屢、言
ハレタ、抽象的ニサウ云フ問題ヲ
律スルコトハ出來ナイト言ヒナガ
ラ、自ラ抽象的ナ法理論的ナ立場
カラソレヲ律シテ居ラレル、デア
リマスカラ本會議ニ於テ我ガ黨ヲ
代表シテ松岡駒吉君ガ質問シタヤ
ウニ、個々ノ生管ノ具體的ナ内容
ニ於テ、政府自身ガ保護スベキハ
保護シ、取締ルベキハ取締ルト云
フヤウニスルコトガ、勞働運動ヲ
シテ健全ナル發達ヲセシメル所以
ダト思フ、河合厚生大臣ノ御答辯
ヲ求メマス

○河合國務大臣 此ノ二ツノ間ニ
一線ヲ劃スルニアラズンバ、日本
ノ經濟ノ秩序ハ保テナイト云フ所
信デ居リマス、ソレデ一々ノ場合
ニ付キマシテ、斯ウ云フコトガア
ツタ、ア、云フコトガアツタト云
フコトハ、ソレハアルカモ知レマ
セヌ、併シソレハ國家ノ大方針ト
ハ別デアリマス、其ノ他ノ點ハ意
見ノ相違ダト云フ風ニ御承知ヲ願
ヒマス（拍手）

○赤松委員 只今厚生大臣カラ個
個ノ場合ハ例外デアリマシテ、之
ヲ政府ガ社會秩序ヲ保持スルト云
フ一點カラ一ツノ「アウト・ライ
ン」ヲ引イテ、サウシテソレニ對
スル認定ヲスルノダ、斯ウ云フ御
答辯デアリマシタガ、私ハ其ノ態
度ハ根本的ニ誤ツテ居ルト思フ、
現在ノ勞働組合ノ實際ノ在リ方ト
云フモノヲ具體的ニ把握シテ居ラ
レナイカラ、サウ云フ抽象的ナ、
而モ現在ノ勞働運動ノ實際ト凡ソ
懸離レタ間違ツタ結論ガ生レテ來
ルト思フノデアリマス、第一勞働
者ガ資本家ニ代ツテ一品一物デモ
澤山生産シテ社會國家ニ寄與スル
ト云フコトガナゼ惡イカ、成程ソ
レガ「イタリヤ」ニ於ケルヤウナ
工場占領、ア、云フヤウナ一ツノ
政治的意味ヲ持ツテ、而モソレガ
全國的ナ形ニ於テ現ハレテ來ル場
合ニ於テハ或ハ當然ソレハ取締リ
ノ對象ニナルデセウ、併シ生産管
理ノ取締リニ於キマシテ、厚生省
ハ唯一箇ノ抽象的ナ規定ヲ置カレ
テ居ルダケデアツテ、具體的事實
ガナイ、厚生大臣自ラガ頭ノ、所
謂觀念ノ中ニ於テ勝手ニ梓ヲ作ツ
テ置イテ、資本家ハ此ノ程度マデ
進出シロ、勞働者ハ此ノ程度マデ
進出シロト云フ「アウト・ライン」
ヲ引カレコトハ、是ハ少クトモ
一國ノ政治ヲ掌ラレル所ノ厚生大
臣トシテハ遺憾千萬ナ態度方針デ
アルト私ハ思フノデアリマス、隨
ヒマシテ個々ノ事實ト云フモノガ
ソレガ集中的ニ見現サレテ、ソコ

ニ一個ノ國全體トシテノ規定ガ生
レテ來ル、即チ政府當局ノ認定ト
云フモノガ生レテ來ルノデアリマ
スガ、其ノ個々ノ具體的ナ事實ガ
何處デドウ云フ風ニ生管ノ爲ニ企
業權ガ侵害サレタノカ、厚生省當
局ハ生管ニ對スル具體的統計ヲ持
ツテ居ラレマセウカラ其ノ具體的
ナ統計ノ中カラ斯ウ云フコトノ爲
ニ企業權ガ侵犯サレタ、或ハ此ノ
程度ノ數字ニ於テハ生産管理ガ立
派ニサレテ居ルト云フ所ノ具體
的ナ數字ヲ示シテ御説明ヲ願ヒタ
イト思フノデアリマス

○河合國務大臣 問題ニ依リマシ
テハ具體的事實カラ法律ヲドウス
ルトカ、認定、解釋ハドウスルト
云フ風ナ政府ノ方針ノ決マルコト
モアリマスケレドモ、又問題ニ依
リマシテハ具體的事實ト云フコト
ト何モ關係ナク、一ツノ信念ニ基
イテ國家ノ方針ノ立ツコトモアリ
マス、ソレ故ニ具體的事實ガドウ
ダカラ此ノ問題ハ斯ウダト云フ風
ニ直チニ考フベキモノデモナカラ
ウト思ヒマス、勿論生産管理ノ狀
況ト云フモノニ付テハ出來ルダケ
詳細ニ政府モ相當其ノ事實ヲ存ジ
テ居リマス、併シ此ノ事實ガ斯ウ
ダカラ結論ハ斯ウダト云フ風ニ行
クベキモノカドウカト云フコトハ
非常ニ疑問デアルト思フノデアリ
マス、ソレデ大體此ノ問題ハ憲法
草案ノ下ニ於テ、日本ノ民主主義
ト云フモノハ斯ウ云フ程度ニ於テ

斯ウナルノダト云フ一ツノ大キナ
「ライン」ガアリマシテ、其ノ「デ
イン」ニ基イテ所有權ト云フモノ
ト勞働權ト云フモノノ對立ヲ認メ
テ居ルノハ御存知ノ通りデアリマ
ス、勿論現行憲法ハソレ以上ニ
ナツテ居ルト思ヒマスガ、サウ云
フ基本觀念ニ於テ、此ノ問題ハ
生産管理ハिकासノダト云フコト
デ、國情ガ非常ニ變ツテ、サウ云
フ問題ニ付テ差別ヲ設ケナクテモ
宜イト云フ、サウ云フ建前ノ憲法
デアリ、國デアアルナラバ其ノ時ニ
ハサウ云フ考ヘ方モアルガ、今我
我ノ目標ニシテ居ルノハサウデナ
イ、サウ云フ風ニ御諒承願ヒタイ
ノデアリマス

○赤松委員 私ハ此ノ問題ハ極メ
テ重要ナ問題デアル、而モ我ガ國
ノ生産再開ニ取リマシテ非常ニ大
キナ意義ヲ持ツモノデアリマスカ
ラ商工大臣ノ御出席ヲ要求致シタ
イト思ヒマス

○達澤委員長 厚生大臣ニ對スル
質疑ハ終リマシタカ

○赤松委員 イヤマダ終リマセヌ
商工大臣ノ來ラレラマデ續行致シ
マス

○達澤委員長 ソレデハ商工大臣
ノ來ラレラマデ續行シテ戴キマス

○赤松委員 生産管理ノ問題ニ對
スル私ノ質疑ハ尙ホ留保シテ置キ
マス

更ニ私ハ現在ノ官公吏ノ生活狀
態並ニソレニ對スル政府ノ對策、

斯ウ云フコトニ付キマシテ一應質問シテ見タイト思フノデアリマス現ニ東京都ニ於ケル實地調査ハ、昭和二十年九月一〇〇ト致シマシテ、各月ニ於ケル指數ハ、昭和二十年九月一〇〇、十月九八十一月一〇八、十二月一〇二二十一年度ニナリマシテ一月一六九、二月一六一、三月一七九ト云フ指數ニナツテ居リマシテ戰前ノ物價指數ヨリハ御承知ノ如ク五十倍ニ上ツテ居ルノデアリマス、尙ホ厚生省ノ御調べニナリマシタ標準世帯收入支出調査デアリマスガ、是ハ昭和二十一年三月ヲ基準トシテ居ル、之ニ依リマ斯拉バ、勞務者ノ支出ハ飲食費ガ五百三十九圓十七錢、其ノ他ガ二百五十二圓十五錢デアリマシテ、計七百九十一圓三十二錢デアリマス所ガ之ニ對シマシテ收入ガドノ程度デアアルカト申シマスナラバ、收入ガ四百三十圓三十一錢、此ノ不足ハ三百六十一圓一錢デアリマス更ニ俸給生活者ハドウデアアルカト申シマスナラバ、是ハ特ニ官公吏諸君ノ生活實情デアリマスガ、俸給生活者ノ飲食費ハ五百四十一圓十三錢、其ノ他ガ二百九十三圓二十九錢、計八百三十四圓四十二錢ニナツテ居リマス、之ニ對シテ收入ガ四百三十四圓、此ノ不足四百圓四十二錢、實ニ收入ノ倍ノ不足ヲ示シテ居ルノデアリマス、尙ホ私ハ生活保護法ニ對スル質問ノ

材料ト致シマシテ、實ハ名古屋地方、或ハ東京都ノ大森、本郷其ノ他ニ於キマシテ、東京帝國大學ノ經學部ノ學生諸君ト共ニ軍人遺家族ノ實地調査ヲ行ヒマシタ、之ニ依リマシテ商工省ノ調査ガ如何ニ杜撰極マルモノデアアルカト云フコトガ明瞭ニナツタノデアリマス所ガ此ノ一家ノ側ク支柱ヲ失ツタ軍人遺家族ノ家庭デスラ非常ニ生活費ガ嵩ンデ居ルノデアリマス、況ンヤ今日官公吏ト致シマシテ一應ノ社會的態樣ヲ具ヘ、或ハ又人間トシテ生活ヲ致シマス時ニ、果シテ現狀ノ儘デ宜イカドウカ、特ニ私ハ去ル日ニ新聞ヲ見タノデアリマスケレドモ、其ノ中ニ實ニ慄然トスルヤウナ事實ガ書カレテ居ルノデアリマス、即チ是ハ厚生大臣モ特ニ御考慮ヲ願ヒタイト思フノデアリマスガ、國務ノ遂行ニ障礙ガアルト云フノデ、特ニ「ストライキ」ノ面ニ於キマシテハ、一般勞働階級カラ特別扱フシテ貰ハナケレバナラナイヤウナ、非常ニ形ノ上デハ優遇サレテ居リマスル所ノ官公吏諸君ガ、今日生活面ニ於テハ餓死カ鬭爭カト云フ言葉ガビツタリ當嵌マルノデアリマス、ソレハ此ノ新聞ニ依リマスレバ、「今日ハ路傍ノ靴磨キ、賣食ヒノネタモ果テタ」斯ウ云フ記事ガ載ツテ居リマス、サウシテ今無理ヲシテ出勤ヲシテ居ル者モ働キ氣力ナク、ヘトヘトニ參ツテ、衣類殘

ラズハタイテ、路傍ノ靴磨キニ出テ居ル者モアル、一日五十圓ニナルノデ恥モ外聞モ云ツテ居ラレナイ、或ハ又國鐵方面ニ於テハ缺勤ガ六〇%、農林省方面ニ於テハ失調ノ母ヲ抱ヘ、死ニサウナ赤ン坊ヲ抱ヘテ官公吏諸君ハ其ノ日ノ辛ウジテ生キテ居ルト云フヤウナ實情デアアルノデアリマス、又巡查ノ如キハ、上役ニ手柄ヲ讓ツテサウシテ僅カナオ小遣ヒヲ貰ツテ居ルト云フヤウナコトモ新聞ニ載ツテ居ルノデアリマス、特ニ東京都ノ物價、別ケテモ家屋維持費ガ非常ニ生活費ノ中デ高イ割合ヲ占メテ居ルト云フ一ツノ事實デアリマスガ、本郷區ニ於ケル或ル「アパート」ノ如キハ、三疊一間デ五十二圓ト云フ算棒ノ間代ヲ取ツテ居ル事實ガアルノデアリマス、私ハ今日特ニ此ノ日本民族ガ危機存亡ノ決定的ナ歷史的ナ運命ノ岐路ニ當面致シマシテ、官公吏諸君及ビ公益事業、或ハ基礎産業ニ從事スル所ノ從業員諸君ニ特ニ奮起ヲシテ戴カナケレバ、當面ノ危機ヲ突破スルト云フコトハ、爾ク困難ナコトニ屬スルト思フノデアリマス、所ガ斯ウ云フ生活實情デ果シテ厚生大臣カ期待サレヤウナ國務ノ遂行、或ハ生産ノ増強ガ出來ルカドウカ、農林省ニ於キマシテハ買出ノ時間ヲ一箇月ニ十日與ヘテ居ルト云フヤウナコトモ新聞ニ載ツテ居ルノデアリマスガ、三十

日一パイ全身全靈ヲ打込ンデ働イテ戴イテモ、尙ホ背負ヒ切レナイ程様々ナ國家的ナ仕事ガ山積シテ居ルノデアリマス、所ガ一箇月三分ノ一休ンデ買出ニ行カナケレバナラヌ、而モ農林省自身ガ其ノ買出ノ時間ヲ與ヘテ居ルト云フ、サウ云フ現狀ノ下ニ於キマシテ、果シテ官公吏及ビ公益事業或ハ基礎産業ニ於ケル全勞働者諸君ヲシテ安ンジテ國務遂行、或ハ産業再開ノ爲ニ動員スルコトガ可能デアアルカドウカ、成程政府ノ過グル引上ニ依リマシテ、若干官公吏ノ收入ガ殖エタノデアリマスケレドモ、或ル新聞ノ投書ニ依リマスレバ、政府ハ六月ニハ五割増俸ヲ實現スルト云ヒ、七月ニモ給與ノ大幅引上ヲ行ツテ、恰モ我々ノ要求ニ副フガ如キ態度ニ出テ來タ、所ガ政府ノ此ノ七月案ヲ見ルト、依然上ニ厚ク下ニ薄ク、尙ホ最低生活ハ何等保障サレテ居ナイ、我々ハコシナコトデハ到底満足ハ出來ナイ斯ウ云フヤウナ記事モ載ツテ居ルノデアリマス、斯様ナ官公吏諸君及ビ公益事業ノ從業員諸君ヲ現實ニ殆ド半餓死狀態ノヤウナ狀態ニ放擲シテ置イテ、サウシテ「ストライキ」ヲ先ヅ抑壓シナケレバナラヌト云フノデ「ストライキ」抑壓ノ爲ノ策ヲ圖ルト云フコトハ、先程申シマシタ通り、例ヘバ胃潰瘍ノ病人ニ砂利ヲ與ヘテ後デ榮養食ヲ與ヘテヤルト云フノト何等變

リナイト思フノデアリマス、之ニ付キマシテハ、政府當局ハ本會議ヲ通ジ、或ハ委員會ヲ通ジテ、是等勞働者ニ對シテハ生活保護法ヲ制定スルコトニ依ツテ其ノ給與ニ關シテハ萬全ヲ期スル方針デアルト言ハレタノデアアルケレドモ、我ヲ以テ言ハシムルナラバ、先ヅ第一ニ是等ノ半餓死狀態ニアル人ニ對シテ生活ノ保障——勿論我我ハ贅澤ナコトハ申シマセヌ、最小限度ノ生活ノ保障ヲ致シテ、然ル後ニ於テ又勞働階級ニ要求スベキモノヲ要求シテ貰フ、サウ云フ筋ノ通ツタ政治ヲ行ツテ戴カナケレバ、到底勞働階級ハ現内閣ヲ信頼シテ産業再開ノ爲ニ全身全魂ヲ打込ムコトハ出來ナイノデアリマス、隨テ先ヅ是等ノ諸君ニ對スル生活ノ保護ニ關スル具體的ナ措置ヲ執ラレ、本勞働關係調整法案ハ先程私ガ申シマシタ通り、日本ノ民主主義化ニ取ツテ有害ナ法案デアリマスルガ故ニ、此ノ法案ハ延期ト云フヨリ寧ロ即時撤廢スベキデアアル、サウシテ私ハソレ等ノ勞働者諸君ノ民族的ナ、階級的ナ本能ヲ十分ニ御信頼下サイマシテ、先ヅソレ等ノ諸君ニ對シテ、安心シテ政府ヲ信頼シテ働ケルト云フ所ノ具體的ナ生活條件ヲ與ヘテ戴クコトガ先決問題デバナイカト思フノデアリマス、今ヤ全國ノ官公吏諸君、又公益事業ニ從事スル諸君、或ハ基礎産業ニ從事スル從業

員諸君ガ、本案ト關聯シテ自分達ノ待遇問題ニ關シ、特ニ會テ勞働組合法ヲ抹殺致シマシタ膳國務大臣ノ登場ニ依ツテ非常ニ不安心、不信賴ノ氣持ヲ持つテ居ル現實ノ事實カラ歸納シテ、特ニ厚生大臣ハ其ノ場逃レノ答辯デナク、是等ノ勞働者諸君ニ對シ十分安心ノ出來ルヤウナ具體的ナ御答辯ヲ御願ヒシタイト思フノデアリマス

○河合國務大臣 官吏ノ給與俸給問題ヲ中心ニシテノ只今ノ御質問ニ御答ヘ致シマス、官吏ノ生活ハ洵ニ氣ノ毒ナ狀態ニアルコトハモウ私共モ御同感デアリマシテ、先程六月ニ於テハ五割、七月カラハソレヨリ少シ増シテ彼此六割増加位ニナツテ居ルト思ヒマスガ、ソレヲ決定シテ目下、實施シテ居ル所デアリマス、此ノ點ニ付キマシテハ、勿論是デ十分満足ニ行ツタトハ思ヒマセヌガ、此ノ點ニ付キマシテ國家ノ財政ノ狀態モアリマスレバ、日本ノ現在ノ狀態モ御承知ノ通りノ狀態デゴザイマスカラ、色々官吏ノ職員組合、或ハ先程申シマシタ逋信省、運輸省アタリノ勞働組合トモ色々協議ヲシマシテ、先ヅ此ノ邊デ一應問題ヲ決メテ譯デアリマス、不満足デハアリマセウガ、大體ノ御諒承ヲ得テ居ル恰好デアリマシテ、百「パーセント」ト云フ譯ニ行カナイノハ甚ダ残念ノ至リデアリマス、唯御承知ノ通り、只今日日本ノ一番問題

ハ、食糧初メ物ノ不足ト云フコトハモウ疑ヒナイコトデアリマス、丁度例ヘテ見マスルト、一枚ノ蒲團ヲ何人カデ引張り合ツテ寢テ居ルヤウナモノデアリマス、コチラガ引張レバコチラガ不足シ、コチラガ引張レバコチラガ不足シ足ラヌト云フコトデ、是ハモウ言フマデモナク皆サン御存ジノ狀態デアリマシテ、國家全體トシテヤハリ「バランス」ヲ考ヘテ行キマセヌト又オトナシク此ノ中ニ寢テ呉レサウシナイトオヒヒニ引張合ヒツコラシテハ仕方ガナイデハナイモト云フコトデ、ドウモ是ハ少イモノデ着テ行カケレバナラヌ、是ハ何處ニ原因ガアルカ、何處ガドウダト云フコトハ一切抜キニシマシテ、現實ノ事實ハサウデアリマス、サウデアアルカラ百「パーセント」思フヤウニ行カヌト云フコトハ、實ハサウ云フ理由ニ基クノデアリマス、ソレデ問題ノ中心ハ如何ニシテ物ヲ多クスルカ、食糧問題ハ幸ヒニシテ聯合國カラノ好意ニ依リマシテ、マアドウヤラ危機ハ凌ガルカト云フ所マデ行キマシタ私ナドモ昨日歸リマシテ確詰ヲ「アメリカ」カラ貰ヒマシタノデ洵ニ衷心カラ斯ウ云フ結構ナモノハ食ツタコトハナイト云フノデ本當ニ家族一同揃ツテ感謝ヲ捧ゲタヤウナ次第デアリマス、斯ウ云フ狀態ヲ何トカシテ回復シヨウ幸ヒ天候モ宜シイ、米ノ問題モ是ナラ

バト云フコトデ稍々愁眉ヲ開クヤウニナリマシタ、勞働者諸君モドウヤラ段々無理ナ「ストライキ」モナクナリマシタ、ソレデ物ハ段々均霑シテ來ル、改マル所ニ收マツテ來ル、一種ノ不安ガ段々收マツテ來ルト云フヤウナ傾向ニアルコトヲ實ハ最近我々モ稍々安心ヲ持つテ居ルヤウナ次第デアリマス、是ハマダ併シ油斷ハナリマセヌ、是カラ所謂擬制資本ノ削除ト云フヤウナ問題カラ關聯シマシテ又色シナコトモ起キマセウ、特ニ勞働問題ノ性格モ多少變ツテ來ハセヌカト云フ心配モ持つテ居リマス、又是カラ先色シナ困難ナ問題ガアリマセウガ、ソレヲ兎モ角モ打退ケテ敗戦後我々ハ起チ上ツテ行カナケレバナラヌト云フコトデアリマスカラ、狀態ガ良クナレバ出來ルダケノコトハヤル、ソレカラ苦シイ中デモ是ハ最モ弱點ト見ル所デハヤハリ補強工作ヲシテ行クト云フ考ヘデ、大體ヤツテ居ル次第デアリマス、其ノ點ハドウカ深ク御諒承願ヒタイト思ヒマス

○赤松委員 尙ホ私ハ此ノ官公吏其ノ他ノ諸君ノ生活問題ニ付キマシテ縷々質問シタイ點ガアリマスガ、是ハ我が黨ノ各同志ガ尙ホ後ニ立ツテ詳細ニ厚生大臣ノ所信ヲ質スト存ジマスルノデ、私ハ其ノ點ニ關シマシテハ此ノ程度デ打切ツテ置キマス、併シナガラ只今ノ厚生大臣ノ御答辯ハ極メテ不満足ナノデアリマシテ、サウ云フ不満足ナ答辯デハ到底現在ノ官公吏及ビ其ノ他ノ方々ガ政府ヲ信賴シテ安心シテ産業再開或ハ國務ノ遂行ニ精進スルト云フコトハ不可能デアルト思フノデアリマス

尙ホ私ハ次ニ御尋ネ致シタイノハ、本法案ノ第二ノ定義、規定ニ於ケル問題デアリマスルガ、一體政府ハ公共事業或ハ公益事業、是ハ抽象的ナ非常ニ概念的ナ言葉デアリマスガ、公共或ハ公益ト云フ言葉ノ持つ本質、所謂公共或ハ公益ト云フモノヲ認定ノ基準ト致シマシテ、ソレヲ一體何處ニ置クモノデアルガ、ソレヲ御尋ネ致シマシテ、引續キ此ノ問題ニ付キマシテ御質問シテ見タイト思フノデアリマス

○河合國務大臣 公益公共ト云フコトハ是ハ廣ク使ハレテ居ル用語デアリマシテ、社會通念トシテ大體決ツテ居ルト思ヒマスルガ、併シナガラ法律トシマシテハ成ベク明瞭ニスル必要ガアルト思ヒマスノデ、第八條ニ於テ「この法律において公益事業とは、左の事業であつて、公衆の日常生活に缺くことのできないものをいふ」と云フ風ニ、公益事業ノ範圍ヲ限定シテ居ルト云フコトデアリマス、左様御承知ヲ願ヒマス

○赤松委員 然ラバ御尋ネ致シマスルガ、只今厚生大臣ノ御定義カラ行キマスルト、三ノ公益事業ニ於ケル定義、即チ其ノ公益性ニ於テ茲ニ羅列シテアリマスルガ、茲ニ羅列シテアリマスル是等ノ事業ハ、特ニ其ノ中ニ於キマシテ醫療衛生ト云フ風ナモノモ擧ゲラレテ居ルノデアリマスルガ、一體公共公益ノ只今ノ御説明ノソレカラ言ヒマシテ、石炭事業等ト比較致シマシテ、何故醫療衛生ナドヲノ事業ト云フノデアルカ、國民生活ニ取ツテ缺クベカラザルモノヲ公共ト言ヒ、公益ト云フナラバ、石炭事業、其ノ他ノ基礎産業ハ一體ドウナルメデアルカ、此ノ點ニ付キマシテ更ニ厚生大臣ニ御尋ネシテ見タイト思ヒマス

○河合國務大臣 此ノ公益事業ト云フノハ公衆ノ日常生活ニ缺クゴトノ出來ナイト云フコトガ條件ニナツテ居リマスノデ、石炭モ勿論重要ナ産業デアリマスルケレドモ毎日ノ「何ト申シマスカ」「デリーライフ」ト云フコトニナラウト思ヒマスルカラ、サウスレバ先ヅ醫療トカ公衆衛生ノ問題、例ヘバ汲取リノヤウナ問題トカ、サウ云フモノノ方ガ日常生活ニビント來ルノデアリマス、サウ云フ意味デ限定シテ居リマス

○赤松委員 然ラバ再度御尋ネ致シマスルガ、若シサウデアルト致シマス、其ノ規定ノ中ニハ尙ホ

必要ニ應ジテ中央勞働委員會ヲ通ジテ其ノ範疇ニ指定スルコトガ出來ルト云フコトニナツテ居ルノデアリマスルガ、此ノ石炭或ハ鐵鋼其ノ他ノ所謂國ノ産業ノ動脈ヲナス所ノ基礎産業ニ對シマシテ、將來之ヲ是等ノ制限事項ノ中ニハ入レナイト云フコトノ御回答ハ戴ケルデアリマセウカ

○河合國務大臣 追加指定ニ付イテハ第二項ヲ御覽ノ通り「業務ノ停廢が國民經濟を著しく阻害し、又は公衆の日常生活を著しく危くする」トアリマスガ業務ノ停廢が國民經濟ヲ著シク阻害スルト云フコトヲ一ツノ要件ニシテ居リマスガ、大體ハ是ハ拔打爭議ノ禁止デアリマシテ爭議自體ノ禁止デハアリマセヌカラ、拔打サレテハ困ルト云フコトガ問題ノ中心ニナルト考ヘマス、ソコデ例ヘバ食糧ノ配給問題ノ如キ、是ハ食糧ノ統制ヲヤラナイ普段ノ時ニハ、食糧ノ配給ト云フ仕事ハ假ニ拔打爭議ガ起ツテモサウ國民ノ日常生活ニハ影響セヌト思ヒマスケレドモ、併シナガラ今日ノヤウナ配給デ而モ各戸ニ貯藏食糧ヲ持タヌト云フヤウナ時ニハ拔打ヲヤラレト困ルト云フヤウナコトナダガアリマス、サウ云フ問題ナドガ今取上グル必要ガアルト見レバ取上グルト云フノデアリマシテ、故ニ法律ニ書キマシタ一カラ四ト云フモノハ、是ハ繼續的ニサウ云フ性質ノモノダ

ト云フコトデ、暫定的ニ又必要ナ場合ニハ食糧ノ配給ノ如キモノモ考ヘルト云フ意味デ此ノ第二項ハ書イテ居ルノデアリマス、鐵、石炭ノ問題ニ付テハ只今ハサウ云フ考ヘハ持チマセヌ、或ハ鐵、石炭以外ノモノデモ國家ノ情勢如何ニ依ツテドウ云フ状態ニナラヌトモ限リマセヌノデ、先ノコトニ付キマシテハ今ココデ斯ウヤラヌトカヤルトカ申上グルベキ限リデハナイト思ヒマス

○赤松委員 サウ致シマスナラバ好ムト好マザルトニ拘ラズ、此ノ規定ハ結局基礎産業全體ニ適用サレル危險性ガアルノデアリマス、固ヨリ政府當局ノ御考ヘニ從ヒマスナラバ、爭議禁止デハナクテ、爭議ノ制限デアルガ故ニ敢テ勞働者ノ團結權、罷業權ヲ否認スルモノデハナイト仰シヤルデアリマセウケレドモ、私共長イ間、二十年間勞働運動ニ携ツテ參リマシタ者ニ取ツテ見マスナラバ、事實罷業權ト云フモノハ、是ハ概念的ナ存在デハナイノデアリマス、具體的ナ而モソレハイツ何日「ストライキ」ヲヤルト云フコトヲ豫定シ、企畫シ、サウ云フヤウニ發生スルモノデハナイノデアリマス、即チ一方ノ意思ガ他方ノ意思ト合意シナイ場合、又言換ヘマスルナラバ相手側ノ不必要ナル刺激ニ依リマシテ、是ハ利那的ニ發生スルモノデアル、而モ罷業權ノ根柢ヲナス

モノハ、飽クマデモ其ノ罷業ト云フ權利ヲ通シテ、勞働者側ノ客觀的妥當ナル要求ヲ實現スルト云フ所ニアルノデアリマス、隨ヒマシテ若シ禁止ハシテハナイガ、制限ハシタ、隨テ勞働者ノ、勞働組合法ニ依ツテ認メラレテ居ル所ノ罷業權ニハ無關係ナモノデアルト云フヤウナ御認識ヲ政府ハ御持チニナツテ居ルト致シマスナラバ、私ハ其ノ認識ハ實際ノ實態ニ即サナイモノデアリマシテ、全ク笑止千萬ナ認識デアルト言ハザルヲ得ナイノデアリマス、又假ニソレヲ十分認識シナガラ、意識的ニサウ云フコトヲ仰シヤラレト致シマスナラバ、私ハ此ノ法案ノ中ニ内包サレル所ノ所謂來ルベキ社會的危機ニ對應シテノ勞資休戰ノ臭ヒヲ嗅ガザルヲ得ナイノデアリマス、一體三十日ノ爭議制限期間ヲ置イテオイト、ソレデ罷業權ヲ認メテ居ルノダト云フヤウナ考ヘ方ガ妥當性ヲ持ツテ居ルカドウカト云フ點デアリマス、一體是等ノ公益事業ト稱セラレ、更ニ又國民生活ニ缺グベカラザルモノト云フヤウナ抽象的ナ概念的ナ規定カラ行キマスト、恐ラク徹底的ナ社會的危機發生ノ瞬間ニ於キマシテハ、之ヲ廣ク基礎産業ニ適用サレルコトモ亦當然豫想サレルノデアリマス、隨ヒマシテ此ノ法案ニ依ル所ノ爭議制限ノ規定ハ、明白ニ勞働組合法ニ依ツテ規定サレテ居ル所ノ勞

働者ノ罷業權ヲ否認スルモノデアリマスガ故ニ、私共ハ此ノ規定ニ對シマシテ絕對ニ反對セザルヲ得ナイノデアリマス、其ノ點ニ關シマシテ更ニ厚生大臣ノ御認識ヲ御伺ヒシタイト思フノデアリマス

○河合國務大臣 公衆ノ日常ノ生活ヲ維持サセテ、之ヲ保ツテ行クト云フコトハ、是ハ憲法ニ認メラレマシタ、我々ノ生存上ニモ非常ニ重要ナコトデアリマシテ、之ヲヤハリ公益上ノ最モ尖端的ナモノト考ヘテ居ル次第デアリマスルカラ、ソレニ拔打爭議ヲヤラレテハ非常ニ困ル、斯ウ云フ事態ヲ發生スルコトハ公益上宜シクナイ、又國民ノ公共ノ福祉ヲ増進シテ行クト云フ國家ノ目的ニモ副ハナイト云フコトデ、拔打爭議ノ制限ト云フコトニナツテ居リマシテ、是ハ度々申上ゲマシタ通り立法ノ理由ハ十分アルト信ジテ居ル次第デアリマス

ソレカラ第二項ノ問題ニ付キマシテ、一般ノ基礎産業ニモ及ブ危險ガアルチヤナイカト云フ御話デアリマシタガ、是ハ第二項ノ業務ノ停廢ガ國民經濟ヲ著シク阻害スルト云フ事態ヲ起スコトハ、サウ總テノ問題ニ起ル譯デアリマセヌ、又公衆ノ日常生活ヲ著シク危クスルト云フコトモ度々起ル譯デアリマセヌ、而モソレニハ勞働委員會ノ議ヲ經、而モ其ノ議ニ付キマシテハ細カイ規定ガアリマシ

テ、各代表者ノソレソレノ過半数ノ同意ガ要スルト云フ風ニ餘程限定的ニナツテ居リマス、御心配ノヤウナ事態ハ起ラヌモノト考ヘテ居リマス

○赤松委員 其ノ點ニ關シマシテモ私ハ更ニ凡ニ爾角度カラ、又幾多ノ論據カラ御質問申上ゲタイト思フノデアリマスガ、此ノ點ニ關シマシテハ我が黨ノ諸先輩ニ依ツテ更ニ後程詳細ニ論ゼラレルト思ヒマスルノデ、私ノ之ニ關スル質問ハ其ノ程度ニ止メテ置キマス、更ニ次ニ御伺ヒシタイトハ、勞働關係調整法ニ依リマスナラバ爭議ノ發生シタ場合ニハ直チニ勞働委員會或ハ行政官廳ニ届出ルコトニナツテ居ルノデアリマス、其ノ發生シタ場合トハ如何ナル場合ヲ指シテ言フノデアルカ「ストライキ」トカ「ゼネスト」トカ云フコトハ至極明瞭デアリマスケレドモ、勞働爭議ノ定義ノ中ニハ、勞働爭議トハ爭議ノ發生シタ場合或ハ發生ノ虞アル狀態ト規定シテ居ルノデアリマス、一體、發生ノ虞アル場合ニ於テハ届出ルノデアアルガ、發生ノ虞アル例ヘバ茲ニ一千人ノ従業員ヲ包容スル工場ガアリマシテ、其ノ一千人ノ従業員ヲ包括スル勞働組合ニ於テ、例ヘバ幹部十名ガ爭議ノ問題ニ關シマシテ協議シタ場合、或ハ又要求ヲ従業員ニ提示ヲ致シマシテ要求ノ統一或ハ爭議行為ニ移ルカドウカト云

フコトノ協議ヲナス、サウ云ツタ
場合ニ於テハ、之ヲ處アル場合ト
云フ風ニ取ツテモ取レナイコトハ
ナイノデアリマス、又處アル場合
デナイト云フ風ニ取ルコトモ出來
ルノデアリマス、此ノ規定ハ極メ
テ曖昧デアリマシテ、私ハ此ノ點
ニ關シマシテモモット詳細ナ規
定——勿論私ハ本案ニ對シテハ絶
對ニ反對デアリマス、隨テ修正意
見デハナイノデアリマス、反對ノ
立場カラ斯ウ云フ各條項ニ於キマ
シテモ斯クノ如キ種々ナル缺點ト
短所ヲ持つテ居ルト云フ例ヲ舉
マシテ、厚生大臣ニ御答辯ヲ願
テ居ルノデアリマス、一體發生ノ
處アルト云フヤウナ抽象的ナ規定
ニ依ツテ勞働者ノ重大ナル罷業權
ノ制限ヲ行フト云フガ如キ或ハ又
ソレヲ屈出デナケレバナラナイト
云フ風ニ法律ニ於テ強要スルト云
フガ如キハ斷ジテ許サレナイ所ノ
ヤリ方デアルト思ヒマスルガ故ニ
此ノ點ニ付キマシテ御答辯ヲ御願
ヒシタイ

尙ホモウ一ツノ點デアリマスガ
此ノ法案ニ依リマスナラバ爭議ノ
調停行爲ハ屈出ノ手續ノ完了ヲ以
テ始メラレルトモ何トモ書イテ居
ナイノデアリマス、勞働委員會ノ
職權ニ依ツテ開始スル場合モアル
シ或ハ行政官廳當事者一方ノ申請
ニ依ツテ同様ニ手續完了ヲ示スコ
トニナツテ居ルノデアリマス、一
體斯ウ云フ點ニ於キマシテモ厚生

大臣ハ、斯ウ云フ規定ガ妥當性ヲ
持つテ居ルカ否カト云フ點ニ付キ
マシテ御答辯ヲ煩ハシタイト思フ
ノデアリマス

○河合國務大臣 爭議發生ノ處ア
ルト云フコトヲ書キマシタノハ、
爭議デナクテモモウ殆ド爭議ノ一
歩手前ト云フヤウナ場合ガヤハリ
アリマスノデ、ソレデ處アルト云
フ言葉以外ニ何カモットハツキリ
シタ言葉ガナイカト色々心膽ヲ碎
イテ考ヘテ見タノデアリマスケレ
ドモ、ドウモ適當ナ言葉ガナクテ
ヤハリ一般ノ法律用語ニ從ツタ次
第デアリマス、其ノ決定ハ勿論最
終ハソレトノ決定スル機關デ決
定スルコトデアリマスカラ、ソレ
ヲヤハリ包含シナクチャ困ルト云
フ實體ニ付テハ包含シナクチャ困
ルノデスケレドモ、用語ニ付キマ
シテハ色々考ヘタガ、ヤハリ仕方
ガナイノデ處アルト云フコトニシ
タノデアリマス、其ノ點御諒承ヲ
願ヒタイト思ヒマス

ソレカラ屈出調停ノ始マル時期
ノコトニ付キマシテハ政府委員カ
ラ御答ヘ致シマス

○吉武政府委員 只今ノ御質問ニ
アリマシタヤウニ、爭議行爲ノ起
ル處ノアルモノマデ屈出サセマス
ト、非常ニ其ノ間ニ難カシイ場合
ガアラウカト思ヒマスノデ、第九
條デ爭議行爲ガ發生シタ時ダケシ
カ要求シテ居リマセヌ、其ノ爭議
行爲ト云フノハ前ニアリマシヤウ

ニ「ストライキ」トカ怠業、作業
所閉鎖等第七條デ明瞭ニシテ居リ
マス、御諒承願ヒマス

ソレカラ調停ノ方ノ手續ニ付キ
マシテハ、調停ノ所デ、大體任意
調停ニ付キマシテハ双方カラ申請
ヲシ、或ハ勞働協約ニ決メテ居ル
時ニハ一方カラ申請ガアリ決議シ
タ時ハ宜シイト云フ風ニシテ居リ
マシテ、ソレ以上ノ細カイ點ハモ
ウ必要ナイデヤナイカト思ヒマス
ト云フノハ餘リ此ノ手續ヲ面倒ニ
致シマス却テ御困リノ場合ガア
リハシナイカ、即チ迅速且ツ便宜
ニド云フ趣旨ヲ考ヘテ居ル譯デア
リマス

○達澤委員長 赤松君ニ申上ゲマ
スガ、商工大臣ガ見エテ居リマス
カラ、商工大臣ニ對スル質疑ヲ繼
續シテ下サイ

○赤松委員 一寸今ノコトデ：
サウ致シマス、例ヘバ從業員大
會、若シハ勞働組合ノ總會、或
ハ從業員大會ニ於テ選出セル從業
員大會執行委員會、或ハ勞働組合
執行委員會ニ於テ要求書ヲ作り、
要求書ヲ事業主側ニ提出致シマシ
タ時ヲ以テ爭議行爲ト見做スモノ
デアアルカ、ソレトモ完全ナル生産
活動ヲ停止シタ場合ヲ指シテ言フ
ノデアアルカ、或ハ又ソレ等ノ兩者
デナイト致シマスナラバ、一體爭
議行爲トハ何ヲ指シテ言フノデア
ルカト云フコトノ、明確ナル御答
辯ヲ御願ヒシテ置キタイト思フノ

デアリマス

○吉武政府委員 御尤モデアリマ
ス、其ノ點ヲ考ヘマシテ今ノ唯要
求事項ヲ大會デ決メルトカ、何ト
カ云フコトハ爭議行爲トハ見テ居
リマセヌ、ソレハ若シ其ノ意見ヲ
決メテ事業主ニ提出ヲシテ、其ノ
間ニ意見ノ不一致ガアレバソレハ
所謂紛議ト云ツテ居ル、詰リ爭議
ニ入リマスケレドモ、併シ爭議行
爲ト云フノハ其ノ中デコノ七條
ニ例示シテ居リマスヤウニ、怠業
ニ入ルトカ或ハ同盟罷業ニ入ルト
カ、作業所閉鎖ニ入ル、サウ云フ
ヤウナ正常ナ運營ヲ阻害スル行爲
ニ入ツタ時ニハ爭議行爲ト言ツテ
居リマス

○赤松委員 然ラバ從業員大會若
クハ勞働組合ノ總會ニ於テ、或ハ
役員會ニ於テ要求書ヲ作成シ、ソ
レヲ事業主側ニ提出ヲ致シマシテ
會社側ニ生産ヲ阻害シナイ、尙ホ
生産ヲ續ケナガラ事業主ト交渉ヲ
續ケル際ハソレヲ指シテ爭議行爲
ト呼バナイノデアアルカドウカ

○吉武政府委員 其ノヤウニ折衝
ヲ續ケラレテ居ル間ハ爭議行爲ト
見マセヌ

○赤松委員 然ラバ再度御尋ネシ
タイノデアリマスガ、其ノ折衝ヲ
續ケル過程ニ於キマシテ、例ヘバ
一日數回ノ若クハ數十回ノ從業員
大會、若クハ勞働組合ノ總會ヲ開
ク、其ノ場合ニハ恐ラク生産ハ出
來ナイデアリマセウ、其ノ要求事

項若クハ交渉ノ經緯ニ付キマシテ
或ハ交渉ノ仕方ニ付キマシテ、或
ハ交渉戰術其ノモノニ付キマシテ
偶々協議ガ行ハレル、サウ云フ場
合ニソレヲ同盟罷業ト間違ヘラレ
或ハ生産ノ完全ナ機能停止ト云フ
風ニ間違ヘラレル場合ガ往々アリ
マス、一體サウ云フ場合ヲ指シテ
爭議ト云フノカドウカト云フ點ニ
付キマシテモ明確ニシテ置キタイ
ト思フノデアリマス

○吉武政府委員 就業時間中ニ大
會ヲ開カレルトハ餘リ好マシク
ナイト思ヒマスケレドモ、併シソ
レヲヤツタカラト云ツテ直グソレ
ガ爭議行爲トハ考ヘテ居リマセヌ
併シナガラ今御話ノアルヤウニ就
業時間中ニ何回モ大會ヲ開イテヤ
ルト云フコトニナリマス、ソレ
ハヤハリ正常ノ運行ヲ阻害スル行
爲デアルト考ヘマスノデ、サウナ
レバ爭議行爲ト認メザラ得ナイ
カト思ヒマス、其ノ具體的ノヤリ
方、行動ヲ見ナイト一寸此處デ申
シ兼ねマス

○赤松委員 是非非常ニ曖昧ナ御
答辯デアリマシテ、工場内ニ於キ
マシテ集會ヲ屢々持つコトハ好マ
シクナイ、斯ウ云フ御答辯デアリ
マスケレドモ、實際問題ト致シマ
シテ自分達ノ生活ヲ左右スル所ノ
重大ナル要求ヲ討議スル爲ニ、而
モソレガ民主的ニ統御サレマシテ
全體ノ納得ノ行クヤウニ十分ナル
討議ガ行ハレマス時ニ、一體屢々

集會ヲ開クコトハ困ル或ハ又屢、集會ヲ開クコトハ正常ナル運行ヲ妨グルモノデアルト云フヤウナ認定ヲ下スト云フ御答辯デアリマシタケレドモ、サウ致シマスナラバ勞働組合ナリ、従業員ナリガ自ラ集會ヲスル權利ガナクナルと思フノデアリマス、サウ云フ集會ヲスル所ノ權利、合法的ナル權利ガ所謂勞働委員會ニ依ル所ノ、或ハ又本法案ニ規定サレル所ノ爭議制限ノ條項ニ依ツテ、即チ爭議行爲制限ノ條項ニ集會ノ自由ガ蹂躪サレルト致シマスナラバ、我々勞働階級ノ集會ノ自由ト云フモノハ是ハ根本的ニ否定サレルヤウナ結果ニナルと思フノデアリマス、其ノ點ニ關シマシテ更ニ政府ノ意ノアル所ヲ御尋ネシタイと思ヒマス

○吉武政府委員 サウ云フ集會ヲスルコトハ自由デアリマス、併シ出來得レバ就業時間外ニヤルコトガ望マシイ譯デアリマス、就業時間中ニヤラレタラ直グイカストハ申シマセヌガ、出來得レバ就業時間外ニヤラレコトガ望マシイ、斯ウ云フ趣旨デアリマス

○赤松委員 是ハ吉武政府委員ハ何ト考ヘテ居ラレルカ知リマセヌガ、望マシクナイトカ、好マシクナイトカ云フヤウナ曖昧ナ御言葉ハ極力避ケテ戴キタイと思フノデアリマス、其ノ理由ハ吉武政府委員個人ノ主觀的ノ御説明デアリナラバ我々ハ言フ費シテ、此ノ貴重

ナル委員會ニ於テ政府當局ニ御尋ネスル必要ハアリマセヌ、少クトモ本委員會ニ於キマスル所ノ政府當局ノ御答辯ガ、其ノ儘今後法ノ運営ノ上ニ具體的ニ生カサレナケレバナラヌト云フ意味カラ申シマシテ、私ハ個人ノ考ヘデナク、厚生省、政府全體トシテノ明確ナル御答辯ヲ煩ハシタイと思フノデアリマス、今吉武政府委員ハ、集會ノ自由ヲ抑壓スルモノデハナイ、斯ウ云フコトヲ仰シヤラレマスガ言葉ノ上、デ集會ノ自由ヲ認メテモ實際ハ就業時間中ニサウ云フ集會ヲ屢々持ツコトハ好マシクナイト仰シヤルナラバ、好マシクナイト云フ言葉ヲモット強メテ申シマスナラバ、ヤツテハナラナイ——ヤツテ貫ヒタクナイト云フヤウナ法律言葉ハアリマセヌ、ヤツテ貫ヒタクナイ、好マシクナイト云フヤウナ馬鹿ガコトハ、ドウシテサウ云フ取締リナリ或ハ法的ナ基準ト云フモノガ示サレルカ、或ハ好マシクナイト云フコトハヤツテハナラナイト云フ風ニ解釋シテモ宜イト思フノデアリマスガ、若シ其ノ解釋ガ妥當ナリトシマスナラバ就業中ニ集會ヲヤルコトハ許シテモ宜イ、當然與ヘラレタ權利ダ、集會ハ認メル、併シ集會ハヤツテハイカスト云フコトニナルノデアリマス、實際問題ト致シマシテ、是ハ吉武政府委員ハ未ダ爭議ヲ御

指導ナサツタ御經驗ガアリマセヌカラ御分リデハアリマセヌガ、實際問題トシテ我々工場ノ中ニ於キマシテ一ツノ爭議ヲ指導スル場合ニ於キマシテモ、成ルベクナラバ就業時間外ニヤリタイノデアリマス、ケレドモ既得ノ生活條件ヲ左右スルヤウナ重大ナ爭議ヲ致シマス時ニ、今ハ就業時間ダカラ一ツ晩ニナツテユツクリ集ツテ相談シヨウデハナイカ、或ハ今就業時間中ダカラ一ツ朝ノ出勤時間前ニ五時カ四時ニドコカニ集ツテヤラウデハナイカ、サウ云フ馬鹿ガコトハ、事實上出來ルモノデハナイノデアリマス、隨ヒマシテ、工場内ニ於ケル所ノ集會ノ自由ハ、當然我々ハ公然ノ憲法上ノ權利トシテ確保シテ居リマスルガ故ニ、私共ハ其ノ爭議行爲ノ爲メデナク要求書ヲ出シマシテ、サウシテ當事者ト其ノ要求貫徹ノコトニ付キマシテ種々相談スル場合ニ、當時工場内ニ於テ従業員大會、若シクハ勞働組合ノ總會ヲ繼續的ニ開クト云フコトハ有リ得ルシ、又開カナケレバ到底全體ノ意ノアル要求書ヲ作ルコトハ出來ナイノデアリマス、隨ヒマシテ、若シモソレスラモイカスト云フコトニナリマスナラバ、我々ハ集會ノ自由モアリマセヌシ、同時ニ又要求書一ツ作成スルコトモ出來ナイ、又政府方望シテ居ラレルヤウナ、當事者トノ間ニ圓滿ナル爭議ノ解決、即チ

圓滿ナル要求ノ合理的ナ解決ハ出來ナイと思ヒマス、更ニ此ノ點ニ付キマシテ御答辯ヲ御願ヒシタイと思フノデアリマス

○吉武政府委員 ドウ云フ風ナ點ヲ豫想サレテ居ルカ存ジマセヌガ、私ガ申シマシタノハ、従業員大會ト云フ風ニ全部ガ集ツテヤレル點ヲ豫想シタノデアリマスルガ、組合トシテ色々幹部ノ方ガ御相談ニナルヤウナコトハ、是ハ就業時間中ニオヤリニナルコトモ已ムヲ得ナイコトデハナイカト私ハ思ツテ居リマス、ソレカラ今ノ從業員大會ノヤウナモノモ、是ハ爭議行爲トシテ爭議ニ入ツテヤラレルモノヲ實際私ハ言ツテ居ルノデハナイノデアリマス、爭議デナイ場合ニハ、出來ルナラバ就業時間外ガ望マシイト云フコトヲ言ツタノデアリマス、ソレハ全然違法デアルト云フ譯デアリマセヌ

○赤松委員 所ガ爭議ニ實際ニ入ルト、一ツノ要求書トシテ細メテソレヲ出シテ當事者ノ回答ヲ聽ク爲ニ集會ヲ開イテ、ソレニ對スル返事ヲ聽ク、サウ云フコトデ、若シモ一週間モ十日モ續イテ、其ノ爲ニ生産ノ運行ヲ著シク阻害スルヤウナ結果ヲ招來シタ場合ニ、政府ハソレニ對シテ非合法ト認メラレルカドウカ、斯ウ云フ私ノ質問デアリマス

○吉武政府委員 ソレハ非合法トハ考ヘテ居リマセヌ

○赤松委員 非合法デナイト云フコトハ、反對ニ考ヘマスレバソレハ自由デアアル、斯ウ云フコトデゴザイマスネ

○吉武政府委員 エ、

○赤松委員 分リマシタラバ商工大臣ニ御尋ネシタイノデアリマスガ、先程カラ實ハ……

○達澤委員長 一寸赤松君ニ御諮リ致シマス、モウ厚生省ニ對スモノハ濟ミマシタカ、モウ一時デスカラ、片方ニ御譲リ願ヒタイと思ヒマスガ……

○赤松委員 ソレデハ繼續シテ申シマス——商工大臣ニ御尋ネシタイと思ヒマス點ハ、實ハ生産管理ノ問題デアリマス、此ノ點ニ付キマシテハ未ダ政府部内ニ於キマシテモ十分ナル統一のナ見解ガナイヤウニ見受ケラレルノデアリマス若シ厚生大臣ナリ、商工大臣ナリガ、サウデハナク政府ハ明瞭ナルソレニ對スル統一のナ見解ヲ持ツテ居ルト云フナラバ、洵ニ結構デアルト思フノデアリマス、實ハ過日モ全官公吏職員組合ノ代表及ビ交通同盟ノ代表、其ノ他ノ勞働組合ノ代表ト植原國務大臣ガ御會ヒニナリマシタ際ニ、生産増強ノ爲メノ、即チ具體的ニ生産ガ一時のデナク、繼續的ニ生産ガ増強出來ルヤウナ生産管理ナラバ、之ヲ認メルト云フコトヲ従業員代表ノ前デ明瞭ニ言ツテ居ラレルノデアリマス、之ニ對シマシテ河合厚生大

臣ハサウ云フ具體的ナ個々ノ生産管理ニ於テ、如何ニ生産能率ヲ上テ、非常ニ好マシイ理想のナ生産運行ガ行ハレテ居ツタシテモ、國トシテハ、國全體ノ立場カラ言ツテ、之ヲ抽象的ナ法理論ノ建前カラ、所謂企業權、所有權ノ神聖ナル擁護ト云フ建前カラ言ツテ、之ニ對シテハ一線ヲ引カナケレバナラヌト云フヤウナ御見解ヲ持ツテ居ラレノデアリマス、私ハ先程モ一ツノ例ヲ擧ゲタノデアリマスガ、例ヘバ或ル一ツノ工場ニ於キマシテ、其ノ工場ノ事業主ガ著シク其ノ生産ノ運行ヲ妨ゲ、具體的ニ申シマスナラバ手持資材ノ値上リ其ノ他ヲ阻ヒマシテ、意識的ニ生産ノ「サボタージュ」ヲヤル、其ノ場合ハ企業權ニ伴フ當然ノ義務ヲ遂行シテ居ナイト云フコトニナルノデアリマス、ソレニ對シマシテ勞働者ガ昔ノヤウニ直グニ工場外ニ出マシテ、サウシテ赤旗ヲ立テテ「デモンストレーション」ヲヤル、或ハ之ヲ輿論ニ憑ヘル爲ニ、廣汎ナル大衆運動ヲ組織スルト云フノデアリマス、反對ニ、如何ニ其ノ責ガ資本家ニアルトハ言ヘ自分達ガ今生産ノ運行ヲ停止スルナラバ、國カ要求シテ居ル、日本人全體ガ要求シテ居ル所ノ生産ニ重大ナ支障ヲ來スガ故ニ、我々ハソレ等ノ資本家ガ爲シ得ナイ所ノ國家的ナ義務ヲ、資本家ニ代ツテ果サウト云フ、サウ云フ正シイ生

産意欲カラ生産管理ヲ行ヒマスル時ニ、商工大臣ハ斯様ナ生産管理ニ對シテハ、之ヲ寧ロ取締ノ對象トシテ、或ハ非合法的ノモノトシテ、單ニ觀念ノ上デ否定スルノデアリマス、寧ロ其ノ生産ヲ助長スルヤウナ合理的對策ヲ御考ヘニナツテ居ルカドウカト云フ點ヲ御伺ヒシタイト思フノデアリマス

○星島國務大臣 赤松君ノ外ノ色色ナ御質問ヲ承ラナイノデ、私或ハ取違ヘテ御返事スルカモ知レマセヌ、何レ機會ヲ得マシテ十分伺ツテ御答辯ヲ致シタイト思ヒマス實ハ今日已ムヲ得ナイコトガアリマシテ、午前ノ豫算總會ニ出マセヌデ、今豫算總會ガ始マリマシテ進歩黨ノ犬養君ニ午後ノコトヲ約束シテ居リマスノデ、簡單ニ一言ダケ答辯サレテ戴キマシテ、御無禮スルコトヲ御許シテ願ヒタイト思ヒマス

只今ノ御尋ネノ要點ダケニ付テ考ヘマスノニ、或ハ交通ノ如キ「ストライキ」スルヨリモ、一時チヨット生産管理ノ形ニ於テ交通ヲ續ケルト云フ場合ニ生産管理ガ便利ダト云フヤウナコトハ、當初生産管理ノ問題ガ起ツタ當時ニ、個人ト致シマシテハ植原君モ私モ或ハコ、ニ合法性ガアルカチアト云フヤウナコトモ考ヘタコトガアリマス、其ノ後色々研究ノ結果一歩目先ニ一寸便宜ナヤウナコトニ因ハレテ、日本ノ全産業ニ稽ヘマ

スト是ハイカナイ、其ノ他惡イ面ハ非常ニ澤山アルノデアリマスカラ、一ツノ例ヲ取ツテ、是ハ宜イヤウニ見エラガドウダト云フヤウナコトハイカヌ、全閣僚餘程研究シテ結果先般聲明ヲ發シタヤウナ結論ニ達シタノデアリマシテ理論的ニハ初メカラ惡イト思ヒマシタケレドモ、個々ノコトニ付キマシテハ、生産管理モ或ハト云フヤウナ點モアリマシテ、多少曖昧ナヤウナコトヲ發表シタコトモアルカモ知レマセヌ、率直ニ申シマスレバ、私ハ最初ノ時ハ交通事業ノ如キハ、ト云フヤウナコトヲ考ヘタコトガアリマス、又商工省關係ノコトデ、小サナ仕事デ生産管理デ旨ク行ツテ居ルコトモ聞イタコトガアリマス、併シソレヲ少シ堀下ゲテ考ヘマス、全日本ノ産業ヲ考ヘル時ニ、生産増強ニナラヌト云フ結論ニ達シタノデアリマシテ、今日我々ト致シマシテハ全面的ニ是ハ先般內閣トシテ發表致シマシタ聲明通りニ考ヘテ居ル次第デゴザイマス、其ノ點御諒承ヲ願ヒタイト思ヒマス

○赤松委員 實ハ此ノ點ニ關シマシテ更ニ私ハ詳細ニ質問シタイノデアリマスガ、商工大臣モサウ云フ御意向ナラバ、私ハ商工大臣ニ對スル質問ヲ更ニ保留シテ置キタイト思ヒマス、尙ホ一言商工大臣ニ御願ヒシテ置キタイコトハ、實ハ配給ノ問題デアリマス、配給問

題ト中小商工業者ノ問題デ御話シタイノデアリマスガ、是モ保留シテ置キマス、唯一言現在ノ食糧營團其ノ他ノ配給機構及ビ配給ノヤリ方ガ如何ニ勤勞者家族ヲシテ非常ニ重大ナル負擔ニナツテ居ルカト云フ點デアリマス、是ハ私ノ感違ヒカモ知レマセヌガ、感違ヒデアラナラバ後程私ハ訂正致シマスガ、食糧營團ノ利益ト云フモノハ一箇年一億圓以上ニ上ルト云フ風ニ私ハ聞イテ居リマス、何レニ致シマシテモ食糧營團ニ限ラズ、或ハ野菜ノ配給ニ致シマシテモ其ノ他ノ配給ニ致シマシテモ、アレハ戰時中ノ惡例デアリマシテ、即チ自由主義ヲ以テ任ジラレテ居ル所ノ商工大臣ノ意ニ反スル所ノヤリ方デハナイカド思フノデアリマス而モ龐大ナル利潤ヲ占メ手數料ヲ占メテ居ル所ノ、ソレ等ノ機構ニ於キマシテ今尙ホ弊害ガアル、隣組若シクハ個人々々ガ行列ヲシテ殆ド半日或ハ一日潰スト云フヤウナコトハ、如何ニ今日勤勞者家庭ノ大キナ負擔ニナツテ居ルカト云フコトハ、商工大臣自ラ政黨出身デアリマスカラ、サウ云フ點ニ於キマシテハ十分ニ御關心ヲ持ツテ居ラレマスルシ、又周知ノ事實デアルト思フノデアリマス、一體食糧營團ト致シマシテモ、國民ニ對スル日常ノ配給機構ガ、是程失業者ガ充滿シテ居ル時期ニ於キマシテナゼアノ戰爭中ニ於キマスヤウ

ナ非差別的ナ配給方針ヲ續ケナケレバナラナイノデアリマス、是ハ單ニ今日勤勞者ノ家庭ト云ハズ恐ラク此ノ爲ニドレダケ家庭ニ於ケル婦人ガ泣カサレテ居ルカ知レナイノデアリマス、勿論上流ノ家庭ニ於テハ數人ノ女中ヲ置イテ、其ノ女中ガ之ヲ擔任スルガ故ニ直接家庭ノ大キナ負擔ニナラナイデセウケレドモ、澤山ノ子供ヲ抱ヘテ夫ノ工場ニ送り出シタ後ノ勤勞者ノ家庭トシテハ、斯ウ云フ範疇ナ戰時中ノヤリ方ガ今尙ホ續イテ居ルト云フコトニ對シテハ非常ニ不滿ト不平トヲ持ツテ居ルノデアリマス、私ハ此ノヤリ方ニ對シマシテハ商工大臣ハ——是ハ希望デアリマスケレドモ、戰前ノヤウナ狀態ニ還元シテ、勤勞婦人ノ家庭ニ於ケル負擔ヲ少シデモ少クシ、全家庭舉ゲテ生産再開ニ獻身出來ルヤウナ、サウ云フ態勢ヲ整ヘ、具體的ナ方策ヲ御考ヘニナツテ居ルカドウカト云フ點ヲ御質問シタイト思フノデアリマス

○星島國務大臣 赤松君ノ御質問ハ御趣旨ニ於テハ私モ同感デアリマス、唯食糧營團其ノ他配給機構ノコトハ商工省ノ所管デアリマセヌガ、私ハ國務大臣トシテ考ヘマスノニ、是ハ眞ニ一ツ直サナケレバナラヌケレドモ、事變前ノ複雜ナル中間搾取或ハ非常ナ共食ヒト云フヤウナモノハ一ツ改メマシテ私ハ或ル程度マデ今日ノ隣組ハ能

第六期第十一號 労働関係調整法案委員会議錄 第六回 昭和二十一年七月二十九日

六九

ク發達シテ來タト思ヒマスカラ、之ヲ一ツ指導シテ消費組合化スルヤウナ風ニスレバ、旨イ所へ導イテ行ケルドラウト考ヘマスノデ、商工省ノ現在ノ行政ニ於キマシテモ、統制ノ除レルモノハ出來ルダケ除ツテ行ク、所ガ中々今日物資不足デアリマシテ、需給調整ガ旨ク行キマセヌカラ、マダノ遺憾乍ラ相當統制ヲ加ヘヌト、トモスレバ、横流れ或ハ少數者ノ方面ヘ流レテシマフト云フコトガアリマスノデ、已ムナク或ル程度ノ統制ハ必要ト致シマスケレドモ、御趣旨ノヤウニ早クコソニ落シテ行キタイ、ソレニハ寧ロ民間ガ目覺メテ來テ、自主的ナル隣組、町會等ガ消費組合等ヲ自主的ニ作ツテ行クコトガ解決ノ要點ト思ヒマス、政府ガア、セイ、斯ウセイト云フコトハ勿論末デアラウト思ヒマス

○赤松委員 一言ダケ御希望申上ゲテ置キマス、基本的ナ方向トシテハ消費組合ニ結構デアリマス併シ左様ナコトヲ言ツテ居レマセヌ、各家庭ニ於キマシテハ奔命ニ疲レテ居ルノデアリマスカラ、食糧營團ガ昔ノヤウニ配達スル者ヲ置イテ、配達出來ナイト云フ理由ハナイト思フ、ドウ云フ點カラ言ツテモ、配達スルコトガ出來ナイト云フ馬鹿ナコトハナイト思フ我々男デスカラサウ云フ點ハ比較的無關心デスガ、家庭ニ於テ、實

際ニ主婦ガドレダケ困ツテ居ルカト云フコトハ、ヤツテ實ヒタイト云フコトヨリ寧ロ全部怨嗟ノ聲デス、斯ウ云フ聲ヲ政黨出身デアリ特ニサウ云フ點ニ於キマシテ、關心ヲ持タレテ居リマス商工大臣、唯官僚的ニズツト命令ヲ下スト云フ意味デナク、食糧營團ナンカニ對シマシテモ十分注意ヲ喚起シテ戴キマシテ、一日モ速カニ家庭ノ主婦ノ過重ナ負擔ガ解除サレマスヤウ御努力下サランコトヲ特ニ御願ヒシテ置キマス

○達澤委員長 本日ハ此ノ位ニ致シマシテ次會ハ明後三十一日午前十時カラ開會致シマス、本日ハ是テ散會致シマス
午後一時二十分散會